

誰もが、誰かの、  
たからもの。

令和8年度

## 各教科等の指導の重点

### しまね教育振興ビジョン

#### 基本目標

すべての子どもが  
学びの主人公  
〔一人ひとりを尊重する学校〕

実体験に根ざした  
本物の教育  
〔地域とともにある学校〕

挑戦心、探究心が育つ  
学びの環境  
〔子どもも大人も学び成長する学校〕

島根県教育委員会

# 目 次

教育課程実施上の重点事項

教育課程編成にあたっての確認事項

## <各教科等>

幼児教育と小学校教育との接続

国語

社会，地理歴史，公民

算数，数学

理科

生活

音楽，芸術（音楽）

技術・家庭（技術分野），共通教科 情報

家庭，技術・家庭（家庭分野），家庭（共通家庭）

図画工作，美術，芸術（美術・工芸）

体育，保健体育

外国語活動，外国語（英語）

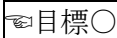
高等学校専門学科（農業，工業，商業，水産，家庭，福祉，情報），芸術（書道）

特別の教科 道徳，道徳教育

総合的な学習の時間，総合的な探究の時間

特別活動

自立活動

※ 各項にある  目標○ は「第2期 しまねの学力育成推進プラン」“子どもが「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくり”の目標1～4との関連を表しています。

※ 各教科等と“子どもが「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくり”の目標5との関連については、以下島根県教育センターHPを参照ください。

島根県教育センターHP トップページ > 学校・教職員支援 > 特別支援教育  
> 子どもの見方・とらえ方 > ●配慮を必要とする児童生徒への支援

下記 URL または二次元コードからアクセスし、ご活用ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



※掲載している講座等の日程及び詳細については、必ず島根県教育センターの研修案内でご確認ください。

# 教育課程実施上の重点事項

## 重点1 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動を行う。

- 「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、各学校がその教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針を家庭や地域と共有している。
- 学校教育全体並びに各教科等の指導を通して、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながらか教育活動の充実を図っている。
- 全ての教職員が学校におけるカリキュラム・マネジメントを進め、相互に連携しながら教育活動の質的向上を図っている。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進している。
- 各園・校種間の接続を意識している。
- 学級経営、児童生徒理解、学習指導と関連付けた生徒指導、各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実や指導方法・指導体制の工夫改善等、児童生徒の発達を支える指導の充実を図っている。
- 障がい、海外からの帰国、日本語の習得、不登校等について、特別な配慮を必要とする児童生徒の指導・支援の充実を図っている。
- 学校の教育活動全体を通じた道徳教育を着実に実施している。

※詳細は「小学校・中学校 教育課程の編成・実施の手引－Q&A－（平成30年3月）」、「高等学校教育課程編成の手引（令和元年7月）」を参照

しまねの教育情報 Web EIOS  
教育課程の編成



## 重点2 学力調査等を活用して自校の課題を的確に把握し、その解決を図るため、適切な教育課程を編成・実施・評価し、発達の段階に応じて組織的に授業改善を行う。

- 全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）を活用し、学校全体、各学年、各学級の実態や課題を把握し、指導の改善を組織的に行っている。
- 全国調査問題を教職員が解くなどして、今求められている力がどのようなものであるかを共有している。
- 児童生徒の昨年度までの学力や学習状況の課題を引き継ぎ、年度当初に、自校の児童生徒の学力や学習状況の課題について共有している。
- 自校の実態や課題を踏まえ、管理職のリーダーシップのもと、目指す児童生徒像を教職員が協働して設定し、共通理解している。
- 目指す児童生徒像を具現化するため、学校全体の重点的な取組を全教職員で共有し、学年、学級、各教科等において、具体的な方策を立てている。
- 「教育課程の編成（計画）」、「教師が何をどう教えたか（実施）」、「児童生徒が何を学んだか、何を身に付けたか（評価）」、「授業の改善（改善）」のPDCAサイクルを回しながら、学校全体で組織的に授業改善を行うための取組を行っている。
- 個に応じた指導の充実を図り、当該学年で求められている学力を児童生徒に身に付けて進級・進学させるという意識をもって、日々の授業改善に取り組んでいる。

しまねの教育情報 Web EIOS  
学力調査



## 重点3 教育課程全体のなかで、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸である総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の位置付けを明確にする。

- 総合的な学習の時間・総合的な探究の時間（以下「総合的な学習の時間」という。）が教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸であるという認識のもと、「各学校が定める総合的な学習の時間の目標」を、「各学校における教育目標」を踏まえて設定している。
- 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行っている。

※総合的な学習の時間が、特別活動（行事の準備・練習、生活目標への取組、集会活動）や外国語活動になっていたり、体験活動のみで終わったりしている実態があります。各学校においては、総合的な学習の時間が探究的な学習になるように指導をお願いします。

探究的な学習の過程 ①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現

#### 重点4 各教科等のねらいを実現するため、児童生徒が見通しを立て、主体的に学習活動に取り組み、振り返るといった学習過程において、言語活動を計画的に取り入れる。

- 各教科等の授業・単元の目標やねらいを明確にし、導入場面において児童生徒が見通しをもつことができる学習活動を計画的に行っている。
- 各教科等の授業や単元の最後に、児童生徒が学習した内容や自分の取組を振り返る活動を計画的に行い、振り返りの内容を評価しながら、学習意欲の向上や学習内容の定着につなげている。
- 各教科等における思考力・判断力・表現力等の育成につながる言語活動を単元計画に適切に位置付け、言語活動の充実を図っている。
- 教科等における言語活動に併せ、学校生活全体における言語環境を整える取組を工夫している。

#### 重点5 学校図書館や ICT を活用して児童生徒の情報活用能力の育成を図る。

- 学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力（情報モラルを含む）」を育成できるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から年間指導計画や指導体系表を整備している。
- 学校図書館の「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能の充実を目指し、学校図書館の整備・改善に努めている。
- 各教科等において調べたことをレポートや新聞にまとめたり、まとめたことをわかりやすく発表したりするといった言語活動に取り組んでいる。
- 各学校において、1人1台端末の系統的な活用方法を明確にし、1人1台端末を効果的に活用した学習活動の充実を図っている。
- 学習活動において、必要に応じて端末を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりしている。

#### 重点6 児童生徒の学習状況の評価を目標に準拠して適切に行い、指導と評価の一体化を図る。

- 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」などを活用し、内容のまとまりごとの評価規準や各授業における具体的な評価規準を作成し、指導と評価の計画を作成している。
  - 児童生徒の自己評価や相互評価、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価などを取り入れるなど評価方法を工夫し、児童生徒の学習状況を的確に把握している。
  - 児童生徒の個々の評価結果をもとに、努力を要する状況（C）と判断する児童生徒への具体的支援や、十分満足できる状況（A）・概ね満足できる状況（B）の児童生徒がさらに力を伸ばすことができるよう、指導方法等の工夫改善をしている。
  - 単元や題材の内容や時間のまとまりを見通しながら、評価の場面や方法を工夫して学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かしている。
- ※評価規準とは、学習指導要領に示す目標の実現状況を判断するための拠り所であり、学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現された姿として具体的に描くものです。児童生徒の状況から「ここまでできればよい」と評価規準を下げることは、目標を下げることであり、決してあってはならないことです。適切な評価規準に基づいた指導と評価を着実に行っていきましょう。

#### 重点7 自主的・計画的に家庭学習を進めることができるように、児童生徒や保護者への働きかけを行う。

- 児童生徒の家庭学習が充実するよう、「授業がよくわかった」、「学んだことがより理解できた」と実感できる宿題を出したり、保護者への働きかけを行ったりしている。
- ドリル学習だけでなく、調べてまとめた内容を授業で活用する、授業で学習した内容をもとに家庭でレポートや感想をまとめるなど、授業と家庭学習が結びつく宿題を設定している。
- 児童生徒が提出した宿題を、きちんとチェックして評価をし、個々への指導に生かすよう、学校全体で取り組んでいる。
- 宿題の量や質について、学校全体で共通理解し、学年間、学級間、教科間で組織的かつ計画的に取り組んでいる。
- 自主的・計画的に家庭学習に取り組めるよう、自分で目標を立て、学習計画を作成・実行し、振り返ることができる家庭学習計画表の活用等に取り組んでいる。



### 重点 8 子どもたちがお互いに切磋琢磨し、学び合うことのできる学級集団づくりを進める。

- 学級集団を客観的に評価し、支援する補助ツールを活用し、学級集団の特徴や集団の中での児童生徒の個々の実態を的確に把握して、よりよい学級集団づくりを進めるために、集団や個に応じた働きかけを適切に行っている。
- 学級の課題を学校や学年全体で共有し、学級相互の連携を大切にした学年経営や、学年相互の連携を大切にされた学校経営を行っている。

### 重点 9 幼・小・中・高において、校（園）内支援体制を整備し、特別な支援の必要な幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえた適切な指導を行うとともに、個別の教育支援計画等の活用を通して、各学校内や学校間の切れ目ない支援体制の充実を図る。

- 障がいのある幼児児童生徒に対する特別支援学級における指導、通級による指導、及び通常の学級における指導について、全教職員の共通理解のもと、実態に応じた効果的な指導が行える体制づくりができています。
- 障がいのある幼児児童生徒に対して、一人一人の障がいの状態や特別な指導内容、合理的配慮を含む必要な支援を把握、整理した上で、適切な指導を計画的に行っている。
- 特別支援学級における指導及び通級による指導を受けている幼児児童生徒の実態を的確に把握した上で、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、指導や評価、引継ぎ等に活用している。

### 重点 10 各園・校種の連携を図り、教育課程のつながりを踏まえた一貫性のある指導を行う。

- 隣接する各園・校種間で、互いの指導内容や幼児児童生徒の状況について情報交換を行い、育てたい資質・能力の共通理解を図っている。
- 隣接する各園・校種間で、育てたい幼児児童生徒像を共有し、保育・授業について相互に参観したり、合同で研究会を行ったりしながら研修を深めている。

### 重点 11 学校教育目標や年度目標、年間の行事計画や具体的取組の重点について、保護者や地域住民等に対して積極的に情報提供して連携を図り、信頼される学校づくりに努める。

- 保護者や地域住民等に対して、年間を通して、児童生徒の学校生活や学習状況等について計画的・組織的に情報提供を行っている。
- 学校と保護者・地域を結ぶコミュニケーションツールとして学校関係者評価を活用し、学校関係者評価委員と連携しながら、学校運営の改善を行っている。

### 重点 12 豊かな心（感性・情緒）を育むための読書活動を推進する。

- 学校図書館や公共図書館を意図的・計画的に活用し、児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実を図っている。
- 児童生徒が自ら進んで読書がしたくなるよう、児童生徒の読書生活を豊かにするための取組を具体的にしている。

### 重点 13 主体的・対話的で深い学びの視点をもった授業づくりを推進するため、ICT やふるさとの地域素材を有効に活用する。

- 電子黒板や児童生徒が使用する1人1台端末を効果的に活用し、個別学習や協働学習の充実を図っている。
- 抽象的な概念を具体的な思考につなげたり、学んだことが身近な社会や生活で活用されていることを想起したりできるよう、各教科での学習に地域素材を生かしている。

島根県教育庁社会教育課  
しまねふるさと教育  
「ふるさと教育とは」  
「ふるさと教育事例」  
「県内のふるさと教育情報」  
「企業等と学校の連携」



文部科学省  
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン「みるみる」



文部科学省  
【慣れるつながる活用】  
“すぐにでも” “どの教科でも”  
“誰でも”活かせる1人1台端末の活用シーン

【各教科での活用】  
デジタル学習基盤で加速する深い学び

【STEAM教育等の教科等横断的な学習】  
STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進について



文部科学省  
「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料」



## 教育課程編成にあたっての確認事項

- 「しまね教育振興ビジョン」「第2期しまねの学力育成推進プラン」の内容を全教職員で確認し、島根県が目指す教育について理解している。
- 教育課程全体で、児童生徒にどのような資質・能力を育成していくかが明確になっている。
- 学校で育成したい資質・能力に向け、必要な教育の内容を効果的に配列している。
- 教育課程の評価について、時数が確保されているかのみを評価するのではなく、客観的なデータ等に基づき、「教育課程の編成（計画）」、「教師が何をどう教えたか（実施）」、「児童生徒が何を学んだか、何を身に付けたか（評価）」、「授業の改善（改善）」のPDCAサイクルにより改善を図っている。
- 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせている。
- 自然災害、インフルエンザ等の感染症等による欠時数の見込みも踏まえて、年間総予定授業時数、各教科等の予定授業時数の計画を立てている。（不測の事態に備えることのみを過剰に意識して標準授業時数を大幅に上回って教育課程を編成する必要はない。）
- 授業時数について点検し、特に、標準授業時数を大幅に上回って（小学校第1学年 956 単位時間以上、小学校第2学年 1,016 単位時間以上、小学校第3学年 1,051 単位時間以上、小学校第4学年から中学校第3学年 1,086 単位時間以上）いる学校は、見直すことを前提に点検を行い、指導体制に見合った計画に見直しをしている。また、学校行事について、精選・重点化、準備の簡素化・省力化を図っている。
- 指導内容の確実な定着を図るため、指導方法・指導体制の工夫改善を図りながら、各教科等の年間の標準時数を確保している。
- 各学年において、学期、月ごと等に授業時数の実績や学習の状況等を点検・評価する体制が整っている。
- 学校経営概要に示された各全体計画及び情報モラルの指導ガイドラインを作成している。
- 各教科等の年間指導計画はもとより、観点別学習状況の評価が効果的に行われるよう、評価規準を設定している。

※教育課程の編成にあたっては、「小学校・中学校 教育課程の編成・実施の手引－Q&A－（平成30年3月）」、「高等学校教育課程編成の手引（令和元年7月）」を参考にすること。

しまねの教育情報 Web E10S  
教育課程の編成



### 【カリキュラム・マネジメントの3つの側面】

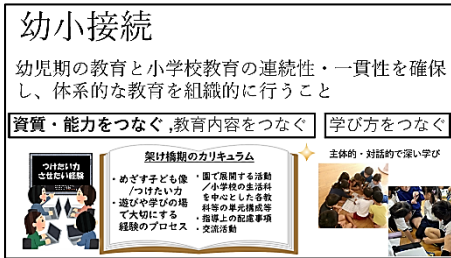
各学校が設定する教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づきどのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくのかという「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められています。カリキュラム・マネジメントには次の3つの側面があります。

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

# 幼児教育と小学校教育との接続 目標3

「第2期 しまねの学力育成推進プラン」子どもが「できた・わかった・やってみよう」を実感できる授業づくりにおける目標3より、特に「幼小接続」の視点について示しています。

## 1 幼小接続とは



平成29年告示の幼児教育施設3要領・指針や小学校学習指導要領では、育成をめざす資質・能力（何ができるようになるか）を、幼児教育から高等学校教育までを通じて系統的に示すとともに、「主体的・対話的で深い学び」（どのように学ぶか）を共通で示すなど、学びの連続性の一層の確保が求められている。

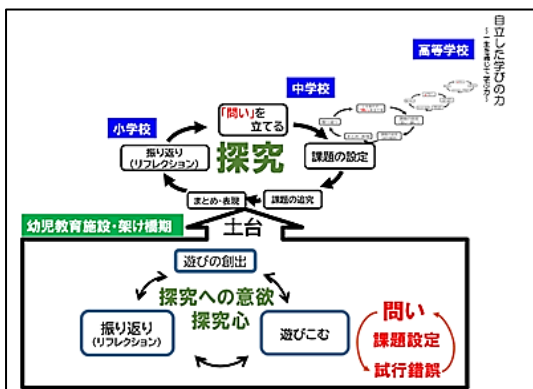
このことを受け、島根県では、幼小接続を「幼児期の教育と小学校教育の連続性・一貫性を確保し、体系的な教育を組織的に行うこと」、詳しくは「資質・能力をつなぐ」、「教育内容をつなぐ」、「学び方をつなぐ」と規定している。そのうち、「資質・能力をつなぐ」、「教育内容をつなぐ」については、各市町村の「架け橋期のカリキュラム開発」の支援から具体化に努めている。

### 架け橋期のカリキュラム内容例

- (1) 小学校区でめざす子ども像/つきたい力  
小学校区の架け橋期の教育が向かう先を明らかにし、組織的な取組とする。
- (2) 遊びや学びの場で大切にしている経験のプロセス  
(1)の育成に向け、遊びや学びの場における経験のプロセスを検討し、架け橋期の教育を体系的なものとする。
- (3) 幼児教育施設での活動・小学校の各教科等の単元構成等  
(2)のプロセスに応じて、幼児教育施設の活動と小学校の各教科等の教育内容を構成する。
- (4) 指導上の配慮事項  
(2)のプロセスを深めるための先生の関わりや、環境の構成・環境づくりを明らかにする。
- (5) 子どもの交流・教員等の交流

## 2 学び方をつなぐ

「学び方をつなぐ」うえで、島根県では「問い」を起点とする「探究の学び」を中核に据えている。



### ① 架け橋期の子どもの学びの重点

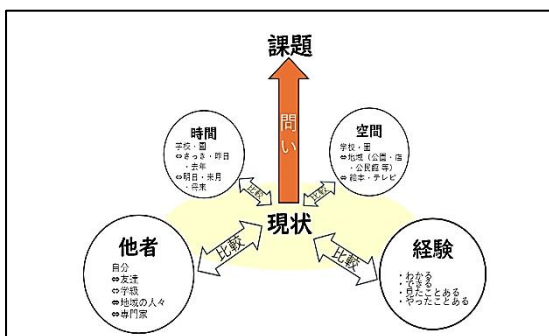
この時期の重点は、直接的な体験を通じて「心が動く」瞬間を大切に、自ら周囲の環境に働きかける「探究心」「探究への意欲」の育成に努める必要がある。そのために、保育者や教師は、遊びや生活科等における具体的な活動や体験の中で、「自分で答えを探したい問い」や、「課題」が生まれるよう、環境構成、状況設定、言葉がけに特に意を用いる必要がある。この「自ら問い、やってみよう」意欲の醸成が、後に続く「探究の学び」の土台となる。(図1)

### ② 「問い」発生への理解

「自分で答えを探したい問い」は「知的好奇心」から生まれてくる。そのため、架け橋期には「心を動かす体験の質を上げる」ための環境構成や状況設定の工夫が求められる。また、「生まれた問いを逃さず拾い上げる教師(保育者)の応答」も重要である。

その際、問いが現実の状況と「理想」「経験」「他者」「空間」「時間」等との比較による「ずれや隔たりの認識」から生まれることを理解することは、応答の質の向上に資する。(図2)

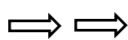
このことは、国語や算数等の探究的アプローチ上にも極めて有効な視点になるものと考えられる。



目標〇は、子どもが「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくりの目標1～5との関連を表しています。

## 小学校 国語

### 幼児教育での学びを受け、発展させる。



### 小学校までの学びを受け、発展させる。



### 中学校までの学びを受け、発展させる。

#### 重点1 言語活動を通して付けたい力を育成する

目標2 目標3

- 各学年に示された指導事項について、どの単元及び言語活動を通して指導するかを明らかにした年間指導計画を作成し、活用している。(右図※1参照)
- 指導事項に示された資質・能力を育成するために言葉を抛りどころにした言語活動を児童の実態を踏まえて設定し、言葉による見方・考え方を働かせた授業を構想している。

#### 【ポイント】

- 教科書や教材ありきではなく、付けたい力(指導事項)を焦点化した単元づくりが大切です。
- 言語活動を設定する際、指導者が実際に活動を行ってみると、ねらいに沿った活動であるかや、具体的なゴールイメージ(力を付けた児童の姿)を確認できます。
- 「情報の扱い方に関する事項」は、他教科を含む今後の学習に生かせるよう、系統的な指導を心がけましょう。

#### 重点2 主体的・対話的で深い学びを実現する授業展開を工夫する

目標1 目標2

目標4

- 児童自身が目的や必要性を感じる(考え、表現したい)学習課題を設定し、児童と共に課題解決のための見通しを立て、個々の考えを形成する学習過程を重視した学習を進められるようにしている。
- 学習の系統性を意識し、単元と関連が深い既習事項を想起して活用できるよう支援している。
- ICT機器等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させている。
- 対話的な学び(他者との伝え合い・作品や著者等)を効果的に設定し、多様な考えを引き出したり深い学びにつなげたりする学習展開を工夫している。
- 振り返りの視点を明確にし、自己との対話を通して学びの深まりや変容を自覚できる場面を設定している。
- 授業と家庭学習とを関連させ、身に付けた言語能力の定着を図り、他教科を含めた学習や社会生活において活用しようとする意欲につなげている。(右図※2参照)

#### 【ポイント】

- ICT機器の利用が付けたい力(指導事項)の育成に適切かを確認しましょう。発達の段階に応じて児童がICT機器を主体的に活用する場面を設定しましょう。

#### 重点3 学習評価の一層の改善・充実を図る

目標1

目標2

- 3観点を意識して「指導と評価の一体化」を図り、記録に残す評価と指導に生かす評価を明確にした指導計画を立て、多様な評価方法を工夫している。
- 観点別の評価は、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、時期や場面に精選している。
- 単元の指導事項と言語活動を基に評価規準を設定する際、目指す児童の姿を具体的に表現している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の観点の状況を踏まえて、「粘り強い取組を行おうとする側面」「自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面から評価している。

#### 【ポイント】

- 目指す児童の姿を具体的にするのに併せて、その姿が見られるような授業づくりを目指すことが大切です。

## 中学校 国語

#### 重点1 言語活動を通して付けたい力を育成する

目標2 目標3

- 各学年に示された指導事項について、どの単元及び言語活動を通して指導するかを明らかにした年間指導計画を作成し、活用している。(右図※1参照)
- 指導事項に示された資質・能力を育成するために言葉を抛りどころにした言語活動を生徒の実態を踏まえて設定し、言葉による見方・考え方を働かせた授業を構想している。

#### 【ポイント】

- 教科書や教材ありきではなく、付けたい力(指導事項)を焦点化した単元づくりが大切です。
- 言語活動を設定する際、指導者が実際に活動を行ってみると、ねらいに沿った活動であるかや、具体的なゴールイメージ(力を付けた生徒の姿)を確認できます。

#### 重点2 主体的・対話的で深い学びを実現する授業展開を工夫する

目標1 目標2

目標4

- 生徒自身が目的や必要性を感じる(考え、表現したい)学習課題を設定し、見通しをもって個々の考えを形成したり、課題解決に向けて試行錯誤したりする学習過程を重視した学習を進められるようにしている。
- 学習の系統性を意識し、単元と関連が深い既習事項を想起して活用できるよう支援している。
- ICT機器等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させている。
- 対話的な学び(他者との伝え合い・作品や著者等)を効果的に設定し、多様な考えを引き出したり深い学びにつなげたりする学習展開を工夫している。
- 振り返りの視点を明確にし、自己との対話を通して学びの深まりや変容を自覚できる場面を設定している。
- 授業と家庭学習とを関連させ、身に付けた言語能力の定着を図り、他教科を含めた学習や社会生活において活用しようとする意欲につなげている。(右図※2参照)

#### 【ポイント】

- ICT機器の利用が付けたい力(指導事項)の育成に適切かを確認しましょう。生徒がICT機器を主体的に活用する場面を設定しましょう。

#### 重点3 学習評価の一層の改善・充実を図る

目標1

目標2

- 3観点を意識して「指導と評価の一体化」を図り、記録に残す評価と指導に生かす評価を明確にした指導計画を立て、多様な評価方法を工夫している。
- 観点別の評価は、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、時期や場面に精選している。
- 単元の指導事項と言語活動を基に評価規準を設定する際、目指す生徒の姿を具体的に表現している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の観点の状況を踏まえて、「粘り強い取組を行おうとする側面」「自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面から評価している。

#### 【ポイント】

- 生徒が学習の見通しをもち、学習後には成果を確認できるよう、評価の方針や評価結果を生徒と共有するようにしましょう。

## 高等学校 国語

#### 重点1 言語活動を通して付けたい力を育成する

目標2 目標3

- 各学年に示された指導事項について、どの単元及び言語活動を通して指導するかを明らかにした年間指導計画を作成し、活用している。(右図※1参照)
- 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の力を高めることを意識して付けたい力を明確化し、その力を付けるのに適切な言語活動を単元の中で設定し、生徒の主体的な学びを引き出している。

#### 【ポイント】

- 「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の各領域をバランスよく扱い、生徒が単元を通して身に付けた力を実感できる授業デザインが大切です。

#### 重点2 主体的・対話的で深い学びを実現する授業展開を工夫する

目標1 目標2

目標4

- 生徒自身が目的や必要性を感じる(考え、表現したい)学習課題を設定し、見通しをもって個々の考えを形成したり、課題解決に向けて試行錯誤したりする学習過程を重視した学習を進められるようにしている。
- 学習の系統性を意識し、単元と関連が深い既習事項を想起して活用できるよう支援している。
- ICT機器等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させている。
- 対話的な学び(他者との伝え合い・作品や著者等)を効果的に設定し、多様な考えを引き出したり深い学びにつなげたりする学習展開を工夫している。
- 小中学校での学習を踏まえ、見通しをもたせたり、振り返りの時間を確保したりして、生徒が自身の学習状況を把握し、調整しようとする場面を設定している。

#### 【ポイント】

- これから生きる生徒に付けたい資質・能力と、そのために必要な学習のあり方を踏まえた授業改善を推進することが大切です。

#### 重点3 学習評価の一層の改善・充実を図る

目標1

目標2

- 3観点を意識して「指導と評価の一体化」を図り、記録に残す評価と指導に生かす評価を明確にした多様な評価方法を工夫している。
- 単元の指導事項と言語活動を基に評価規準を設定する際、目指す生徒の姿を具体的に表現している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価を、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の観点の状況を踏まえて、「粘り強い取組を行おうとする側面」「自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面から評価している。
- 学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、生徒自身が学習の見通しをもてるよう、学習評価の方針を事前に生徒と共有している。

#### 【ポイント】

- 学習評価の妥当性や信頼性を高めるには、校内の教員間で付けたい力や評価の在り方を共有することが大切です。

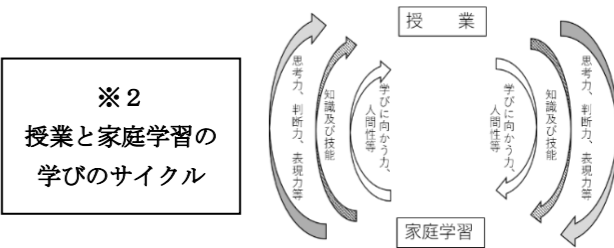
#### 小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力(目指す子どもの姿)

目標3

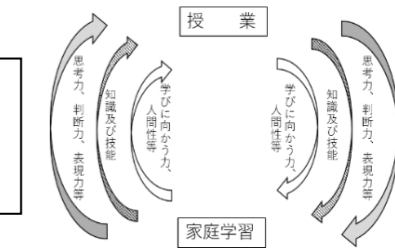
- 課題解決に向けて主体的に言語活動に取り組むとともに、言語感覚を磨き、国語を尊重する態度を身に付けている。
- 日常生活・社会生活において必要な国語の特質について理解し、適切に使っている。
- 他者とのかかわりの中で、互いの立場や考えを尊重し合いながら、思いや考えを言葉にして伝え合っている。
- 読書に親しみ、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を身に付けている。(読書とは、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含む。)
- 目的や意図に応じて必要な情報を収集・整理し、理由や根拠を示しながら自分の考えを明確に表現している。情報を活用する際には、学校図書館やICT機器も有効に活用している。

#### ※1 マトリックス型の指導計画表

5年生		【思考力、判断力、表現力等】												
		A 話すこと・聞くこと					B 書くこと			C 読むこと				
月	指導事項 学習過程	① 言葉の特殊な使い方に関する事項 アイ	② 我が国の言語文化に関する事項 アイ	③ 我が国の言語文化に関する事項 アイ	話しことば 聞くこと 話しことば 話しことば	話しことば 話しことば 話しことば	話しことば 話しことば 話しことば	話しことば 話しことば 話しことば	話しことば 話しことば 話しことば	話しことば 話しことば 話しことば	話しことば 話しことば 話しことば	話しことば 話しことば 話しことば	話しことば 話しことば 話しことば	話しことば 話しことば 話しことば
4	■■■■を話そう	ア	◎	○	○	ア								
5	登場人物について感じたことを伝え合おう	ク											◎	○



#### ※2 授業と家庭学習の 学びのサイクル



#### 研修等について

小学校国語科教育講座 8/26(水) 浜田教育センター  
 小中学校国語科教育書写実技講座 7/21(火) 島根県教育センター  
 中・高等学校国語科教育講座 8/20(木), 12/3(木) 島根県教育センター  
 新任学校図書館担当者研修 7/2(木) 島根県教育センター  
 学校図書館を活用した授業改善講座 10/7(水) オンライン

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」  
 (国立教育政策研究所)  
 ※小, 中, 高校の PDF データをダウンロード可能  
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouairyuu.html>



StuDX Style 国語科(文部科学省) 目標4  
 ※小, 中, 高校での ICT 活用ポイントと授業での活用事例をダウンロード可能  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/mext\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00003.htm)



目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



## 小学校 社会

### 重点1 単元を貫く「問い」を基軸とし、単元を構成する。

☑目標1 ☑目標2

- 単元で児童に身に付けさせたい力を明確にし、児童のゴールの姿をしっかりとイメージしている。
- 単元を通して最終的に獲得させたい知識（中心概念）を明確にし、取り上げる社会的事象を吟味するとともに、具体的知識を整理し、児童の思考の流れに沿った問いを設定している。

#### 【ポイント：知識と問いの構造図について】

単元全体の指導計画を立てる上で、単元全体の知識と問いの構造図をつくることは有効です。※中学校でも有効です。



### 重点2 「主体的・対話的で深い学び」につながる指導と評価を考える。

☑目標1

- 単元の導入において、社会的事象から児童が問題を発見し、単元全体の学習への見通しをもてるようにしている。そして、学習過程に沿って自身の学習状況を確認したり、次の学習や生活に生かそうとしていたりしているかを評価している。(主体的に学習に取り組む態度)
- 児童から生まれる問いや問題意識を大切にするとともに、目的を明確にした話し合い活動等を取り入れながら、導入からまとめまでの問題意識の流れを踏まえた指導を行っている。そして、追究過程に沿って、社会的事象に着目し、問いを見いだし、社会的事象の様子について考え表現しているか、また、比較・分類、総合などして社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているかを評価している。(思考・判断・表現)
- 児童の追究意欲を喚起・持続するような資料の精選や授業の組立を工夫している。そして、児童が資料から必要な情報を読み取り、社会的事象を具体的に理解しているか、さらに調べたことをもとにその特色や意味を理解しているかを評価している。(知識・技能)

#### 【ポイント】

「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると考えられます。

## 中学校 社会

### 重点1 単元を貫く「問い」を基軸とし、単元を構成する。

☑目標1 ☑目標2

- 単元で生徒に身に付けさせたい力を明確にし、生徒のゴールの姿をしっかりとイメージしている。
- 単元を通して最終的に獲得させたい知識（概念的知識）を明確にし、取り上げる社会的事象を吟味するとともに、具体的知識を整理し、生徒の思考の流れに沿った問いを設定している。

#### 【ポイント】

育成を目指す資質・能力を明確にした上で、「単元を貫く問い」を中心に、「知識と問いの構造図」(「小学校社会」の重点1)や単元の指導計画を作成しましょう。

### 重点2 「主体的・対話的で深い学び」につながる指導と評価を考える。

☑目標1

- 「単元を貫く問い」に対して、生徒が予想を立てたり、課題解決に必要なことを考えたりして、単元の学習に見通しがもてるようにしている。また、単元末では、単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容により評価している。(主体的に学習に取り組む態度)

「単元の振り返りシート」(※)を活用することで、生徒が学習を見通したり、振り返ったりしやすくなり、教師も単元全体の生徒の学習状況を見取ることができます。

- 「単元を貫く問い」を生徒が追究する過程で、「社会的な見方・考え方」を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら考察・構想し、表現できるようにしている。その際、レポート作成、発表、話し合い、作品制作等の多様な活動を取り入れたりするなど、評価方法を工夫している。(思考・判断・表現)

「社会的な見方・考え方」は、とりわけ「思考力、判断力、表現力等」の育成に重要な役割を果たします。評価規準は、生徒に着目させる具体的な「視点」や、比較や関連付け等の「方法」を組み込んで設定してみましょう。

○『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」に事例が掲載されていますので、参考にしてください。

- 生徒が、資料を収集・選択し、そこから情報を読み取ることで考察や理解につながるように、資料の精選や授業の組立を工夫している。また、個別の事象などの知識のみに留まらず、それらを関連付けて、社会的事象等の特色や意味、理論といった概念的知識を獲得しているかを評価している。(知識・技能)

#### 【ポイント】

「社会的な見方・考え方」を働かせる鍵となるのが、問いです。社会的事象の特色や意義などを考えさせる問いや、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断するための問いを、単元のどこにどのように位置付けるのかを考えることが大切です。

## 高等学校 地理歴史、公民

### 重点1 単元を貫く「問い」を基軸とし、単元を構成する。

☑目標1 ☑目標2

- 単元で生徒に身に付けさせたい力を明確にし、生徒のゴールの姿をしっかりとイメージしている。
- 単元を通して最終的に獲得させたい知識（概念的知識）を明確にし、取り上げる社会的事象を吟味するとともに、具体的知識を整理し、生徒の思考の流れに沿った問いを設定している。

#### 【ポイント】

学習指導要領を踏まえ、育成を目指す資質・能力等を明確にした上で、「単元を貫く問い」を中心に単元の指導計画を作成しましょう。

「単元を貫く問い」  
・事象の理解を深める核となる学習内容をもつ、鍵となる概念をもつ「問い」。  
・深い思考や新しい理解を促し、考察が持続する、学ぶ価値のある「問い」。  
・特定の時代や地域を越えた比較や関連付けが可能となる、転移を促す「問い」。

### 重点2 「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりをする。

☑目標1

- 生徒が学習の見通しをもつことができるように、学習課題を明示し、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定して、生徒の表現を促すようにしている。
- 「社会的な見方・考え方」を働かせることで、生徒自身が社会的事象を多面的・多角的に考察し表現することができるような課題を設定し、追究したり解決したりする学習場面を設定している。

#### 【ポイント】

「社会的な見方・考え方」を働かせることは、本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力、表現力の育成はもとより、生きて働く知識の習得にも不可欠であると考えられます。(「小学校社会」「中学校社会」の重点2【ポイント】も参照)

### 重点3 指導と評価の一体化を意識する。

☑目標1

- 学習指導要領に示された目標及び内容を踏まえて、単元の評価規準を作成している。
- 学習結果を見取る評価(総括的評価)だけでなく、学習過程を見取る評価(形成的評価)にも留意し、指導と評価の一体化を図っている。
- 評価の方法を工夫している。例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図ること等が考えられる。また、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。

#### 【ポイント】

指導と評価は別物ではなく、評価の結果によってその後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要です。

## 小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力(目指す子どもの姿) ☑目標3

### ◎基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得している。

(例)・国土や地域の地理的環境、日本及び世界の歴史の展開、現代の諸課題について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。

### ◎「社会的な見方・考え方」を働かせ、思考・判断したことを適切に表現する力を身に付けている。

(例)・社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力、思考・判断したことを適切に表現する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら議論する力を身に付けている。

### ◎主権者として、課題を主体的に解決しようとする態度を身に付け、人間としての在り方生き方や他国を尊重することの大切さを自覚している。

(例)・公共的な事柄に参画していこうとする態度、自立的な消費者として持続可能な社会の形成に積極的に関与しようとする態度を身に付けている。  
・グローバル化する国際社会の中で、各国が相互に主権を尊重し、国民が協力し合うことの大切さについて自覚している。

## 指導要領解説の参考資料も併せてご確認ください。

小・中学校で系統的に学習を進めるために以下の資料も参考になりますので、ご確認ください。  
参考資料1：小・中学校社会科において育成を目指す資質・能力  
参考資料2：小・中学校社会科における内容の枠組みと対象  
参考資料3：社会的事象等について調べまとめる技能

## 研修等について

- 小学校社会科教育講座  
6月26日(金)島根大学附属義務教育学校  
※受講対象は小学校・義務教育学校前期課程及び特別支援学校(小学部)の教員
- 中学校社会科、高等学校地理歴史科・公民科教育講座  
11月11日(水)島根県教育センター  
※中学校・義務教育学校後期課程・高等学校・特別支援学校(中学部・高等部)の社会科、地理歴史科・公民科担当教員

## ICTの活用について ☑目標4

小中高等学校とともに、情報の収集、処理や発表などにあたっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、児童生徒が主体的に調べ分かうとして学習に取り組めるようにしましょう。その際は、課題の追究や解決の見通しをもって児童生徒が主体的に情報手段を活用できるようにすることが大切です。



文部科学省 Web ページ「StuDX Style」  
各教科での活用(社会科、地理歴史科、公民科)  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/mext\\_00004.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00004.html)

※学習指導案や「単元の振り返りシート」の例がしまねの教育情報 Web EIOS に掲載されていますので参考にしてください。

(EIOS > 授業づくり > 小学校または中学校 > 社会)

【小学校】

<https://eio-shimane.jp/class-making/elementary-school/el-Social/>



【中学校】

<https://eio-shimane.jp/class-making/junior-high-school/jr-Social/>



目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



小学校  
算 数

中学校  
数 学

高等学校  
数 学

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指します ～目指す子どもの姿を具体的にイメージする～

**重点1** 数学的活動の充実

目標1 目標2

児童の資質・能力を育成するために、以下の活動を充実させている。

- 日常の事象から見いだした問題を解決する活動
- 算数の学習場面から問題を見いだし解決する活動
- 図、式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動
- 数量や図形を見いだし、進んでかかわる活動(第1・2学年)

【ポイント】児童は問題解決に本来興味をもち、積極的に取り組む姿勢を有している。(中略)そうした児童の本性に根ざす数学的活動を積極的に取り入れることによって、楽しい算数の授業を想像することが大切である。

(学習指導要領 解説【算数編】 p27～p28)

<参考(リンク)>

- [児童が考えること、やり切ることを楽しむために](#)
- [子どもの声でつくる算数授業づくり](#)

**重点1** 数学的活動の充実

目標1 目標2

生徒の資質・能力を育成するために、以下の活動を充実させている。

- 日常の事象や社会の事象から問題を見いだし解決する活動
- 数学の事象から問題を見いだし解決する活動
- 学んだことや数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動
- 既習の知識及び技能と関連付けながら、統合的・発展的に考える活動

【ポイント】[数学的活動]は、生徒が主体的に取り組むものであり、その機会を日々の学習において、意図的、計画的に設けることが大切である。(学習指導要領 解説【数学編】p39)

<参考(リンク)>

- [生徒全員が「～してみたい」という気持ちにつながる授業づくり](#)

**重点1** 数学的活動の充実

目標1 目標2

生徒の資質・能力を育成するために、以下の活動を充実させている。

- 日常の事象や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理して問題を解決し、解決の過程を振り返って考察する活動
- 数学の事象から自ら問題を見いだし解決して、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する活動
- 自らの考えを数学的に表現して説明したり、議論したりする活動

【ポイント】数学的活動とは、(中略)いずれにしても生徒に学習の目的を感じ取らせ主体的な学習にすることに留意すべきである(学習指導要領 解説【理数編】p35)

<参考(リンク)>

- [学習内容が生徒にとって自分ごとになる工夫](#)

**重点2** 本質を理解させる指導へ

目標1

<授業の中で>

- 主体的学習・数学的活動を通して様々な場面での活用を意識した知識や技能の習得を図っている。
- 数学的活動を通した学びに、すべての生徒一人ひとりがアクセスできるようにしている。

<単元の中で>

- 中心的な内容、生徒の実態を踏まえ重視すべき内容に十分な時間をかけて指導している。
- 育てるべき資質・能力(態度)などを明確にしている。

【資料】(リンク)

- [「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 数学編 \(PDF\)](#)
- [学習指導要領解説 高等学校 数学編 理数編 \(PDF\)](#)

**重点2** 意味の理解を深める指導へ

目標1

- 「数と計算」において、数の仕組みや式の意味、計算の仕方を言葉や図とも関連付けながら考え、表現し伝え合う活動の充実を図っている。
- 「図形」において、図形の特徴や構成要素、位置関係に着目して図形の弁別や面積の求め方を考え、表現し伝え合う活動の充実を図っている。
- 「測定」において、目的に応じた単位に着目してもの大きさを数値化し、測定の仕方や得られた結果について表現し伝え合う活動の充実を図っている。
- 「変化と関係」において、言葉、図、式、表などを関連付けながら数量の関係を捉え考察し、表現し伝え合う活動の充実を図っている。
- 「データの活用」において、目的に応じたグラフの特徴を理解し、根拠を示しながら表現し伝え合う活動の充実を図っている。

**重点2** 意味の理解を深める指導へ

目標1

- 「数と式」において、単に用語を覚えさせたり、計算させたりするだけでなく、式の表す数量の関係や計算の意味を理解する活動の充実を図っている。
- 「図形」において、作図等を通してその概念や性質の理解を深めながら、論理立てて考える活動の充実を図っている。
- 「関数」において、表、式、グラフを相互に関連付け、問題解決の方法を説明したり、その表現をより洗練させたりする活動の充実を図っている。
- 「データの活用」において、相対度数や確率の必要性を理解しながら、データの傾向を読み取り数学的に説明し伝え合う活動の充実を図っている。

**重点3** 指導と評価の一体化と家庭学習の充実を図る

目標1 目標2

- 単元のまとまりの中で適切に評価できるように、観点別学習状況について、評価する場面や時期を精選して指導と評価の計画を立てている。
- 授業の中で、児童生徒の表現をもとに学習状況を適宜把握(形成的評価)して児童生徒の学習改善と教師の指導改善に生かしている。
- 授業づくりにおいて、学んだことを繰り返し活用する場面を設定したり、家庭学習(宿題、自主学習)とのつながりを図ったりしている。
- 学習の効果をより高めるICT機器の活用場面を適切に設定する。

【資料】(リンク)

- [「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 算数編 \(PDF\)](#)
- [学習指導要領解説 小学校 算数編 \(PDF\)](#)
- [全国学力・学習状況調査 授業アイデア例](#)

(国立教育政策研究所 HP)

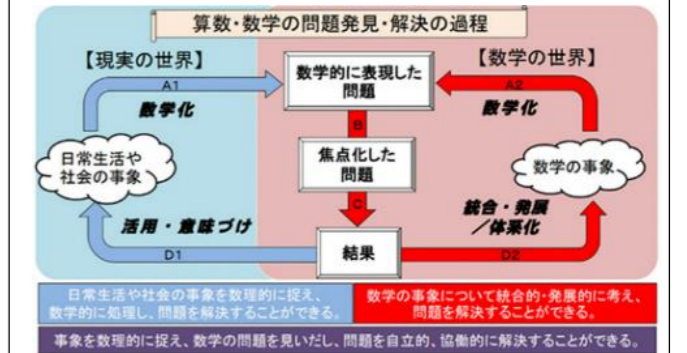
【資料】(リンク)

- [「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 数学編 \(PDF\)](#)
- [学習指導要領解説 中学校 数学編 \(PDF\)](#)
- [全国学力・学習状況調査 授業アイデア例](#)

(国立教育政策研究所 HP)

小・中・高を通じて身に付けさせたい  
資質・能力(目指す子どもの姿) 目標3

- 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、思考の過程や判断の根拠などを数学的に表現し、説明したり、伝え合ったりすることができる。
- 解決の過程や結果を振り返り、「類似な事柄の間に共通する性質を見いだす」、「他に分かることはないかを考える」など、統合的・発展的に考察することができる。
- 様々な日常や社会の事象の考察に生かすことができる知識及び技能を身に付け、問題発見・解決の過程において的確に用いることができる。
- 学ぶ過程で様々な工夫、驚き、感動を味わい、算数・数学を学ぶことの面白さ、考えることの楽しさを味わうことができる。



数学における ICT 活用(リンク) 目標4

- [ICT活用のポイント及び事例](#)
- [算数・数学科におけるICTの活用について](#)  
<広く活用されているアプリ等>
- [関数・図形【GeoGebra】](#)
- [統計【SGRAPA】](#)

研修等について

- 小学校算数科教育講座  
9月8日(火)  
附属義務教育学校前期課程
- 中・高等学校数学科教育講座  
10月27日(火)【予定】  
県内中学校

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。  
URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



## 小学校 理科

## 中学校 理科

## 高等学校 理科

「理科の見方・考え方」を働かせながら問題解決の過程（探究の過程）を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を育成します！

### 重点1 問題解決の過程を重視する 目標1 目標2 問題の見いだし

- 「おや？」「どうして？」といった認識のずれが生じるよう、自然の事物・現象との出会わせ方を工夫したり、繰り返し観察や試行できる場を設定したりしている。
- 複数の自然の事物・現象を比較し、その差異点や共通点から得た⑩気付きや疑問を基に、解決したい問題を一人一人が見いだし、表現できるように工夫している。

#### 予想や仮説

- 見いだした問題に対して、根拠のある予想や仮説を発想できるよう、④⑦自然の事物・現象と既習の内容や生活経験等を関係付けられるように工夫している。

#### 観察、実験の計画

- 予想や仮説を確かめるための方法を発想し、表現する活動を設定している。
- 自然の事物・現象に影響を与える要因について調べる際、条件を制御する考え方を働かせられるように工夫している。
- 観察、実験の結果がどうなるかを事前に見通す活動を設定している。

#### 観察、実験

- 一人一人が観察、実験を行う機会を設定している。
- ②観察、実験の過程や結果を、表やグラフ、図、絵などを⑩適切に用いて記録する活動を設定している。

#### 考察と結論

- ⑯観察、実験の結果を基に、予想や仮説、観察、実験の方法を見直し、再検討する活動を設定している。
- より妥当な考えをつくりだせるよう、④複数の観察、実験結果からその妥当性を吟味するなど、多面的に考えられるように工夫している。
- 事実（方法と結果）と解釈（結果から考えられること）を分けて考え、両方を表現する活動を設定している。

#### 【ポイント】

- 各学年で中心的に育成する問題解決の力が次のように示されています。実際の指導に当たっては、他の学年で掲げている力の育成にも配慮する必要があります。
- 第3学年「差異点や共通点を基に問題を見いだす力」
- 第4学年「既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力」
- 第5学年「予想や仮説を基に解決の方法を発想する力」
- 第6学年「妥当な考えをつくりだす力」

### 重点2 自然の事物・現象や日常生活と関連付ける 目標1 目標2

- 学習内容を、日常生活や社会及び身近な自然の事物・現象に当てはめて考える活動を設定している。
- 児童が目的を設定し、それを達成するためにものづくりを行う活動を設定している。

#### 【ポイント】

体験を通して学習内容と自然の事物・現象や日常生活と関連付け、科学を学ぶ意義や有用性を実感できるようにすることが大切です。

### 重点3 指導と評価の一体化を図る 目標1 目標2

- 単元を通して育成したい資質・能力を明確にし、「指導と評価の計画」を立てている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



### 重点1 探究の過程を重視する 目標1 目標2 課題の設定

- 自然の事物・現象に出会って抱く違和感（「あれ？」「おや？」）などの⑭疑問から事象に含まれる要因に着目し、生徒が⑥問題を見いだせるように工夫している。
- ①事象を注意深く観察して何が要因かを見つけ、変化すること（従属変数）とその原因として考えられる要因を整理し、生徒が課題を設定できるようにしている。

#### 予想や仮説

- 問題や課題に対して⑦根拠ある予想や仮説を立てられるようにしている。
- 単なる直感ではなく、⑨予想や仮説が解決方法の立案につながるようにしている。

#### 観察、実験の計画

- 「変化すること（従属変数）」の原因として考えられる要因を「変える条件（独立変数）」と「変えない条件」に整理し、予想や仮説を基に、それらを確かめるための⑨観察や実験を計画する学習場面を設定している。

#### 観察、実験

- 一人一人が予想や仮説を確かめるための②観察、実験を行う学習場面を設定している。

#### 考察と結論

- 事象の観察から見つけた⑩⑯要因や、観察、実験の結果などの情報を⑦分析・解釈し、判断したり、推論したりする学習場面を設定している。
- ⑯観察や実験の結果などの根拠に基づいて、自らの考えや⑨他者の考えに対して多面的、総合的に考察したり、計画した観察、実験を検討して改善したりする学習場面を設定している。
- ⑧生徒の探究の成果を意味付けて、④⑩次の探究へと誘うように工夫している。

#### 【ポイント】

- 各学年で次の探究の過程を重視するなど、系統的に科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することが大切です。
  - 第1学年「自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす」
  - 第2学年「解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する」
  - 第3学年「探究の過程を振り返る」
- 上述の項目を意識し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を進めていくことが大切です。

### 重点2 自然の事物・現象や日常生活と関連付けた指導の充実を図る 目標1 目標2

- 学習している内容が、日常の生活や社会を豊かにしていることに気付ける学習活動を設定している。
- 生活体験から得られる概念と理科の学習を通して獲得した知識を結びつけて、体系化していく視点をもって指導している。

#### 【ポイント】

自然体験の大切さや日常生活や社会における科学の有用性を実感できるようにすることが大切です。

#### 【ポイント】

- 次の3つの視点に立って学習評価を真に意味のあるものにするのが重要です。
- ①児童・生徒のおもだった状況を把握する場面を設定する。（確認）
- ②把握した状況を基に、必要な指導を行う。（指導）
- ③すべての児童・生徒について記録をとり、評価を行う。（記録）

### 重点1 探究の過程を充実させる 目標1 目標2 課題の設定

- 生徒が知的好奇心をもって①②⑩自然の事物・現象に関わるように工夫している。
- 事象を科学的な視点で捉えることで得た気付きから、⑤⑥⑭生徒が課題を設定できるようにしている。

#### 予想や仮説

- 観察、実験を行う際、生徒が何のために行うのか、どのような結果になるのかを考えながら、④⑦⑨予想したり仮説を立てたりできるように工夫している。

#### 観察、実験の計画

- 観察、実験を計画する場で、⑧⑨生徒が考えを発表したり、検証方法を意見交換・議論したりしながら考えを深め合う学習活動を設定している。

#### 観察、実験

- 生徒一人一人が予想や仮説を検証するため、②見通しをもって観察、実験を行う学習場面を設定している。

#### 考察と結論

- 生徒が観察、実験などの⑩⑯結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討したり、探究全体を振り返って⑤⑧改善策を考えたりする学習場面を設定している。
- 生徒が自身の考えをより妥当なものにするため、他者と意見交換をしたり、④⑦根拠に基づいた議論をする学習場面を設けたりしている。
- 「理科の見方・考え方」を働かせ、生徒が③④⑥次の学習や日常生活などにおける課題を発見し、解決することができるように工夫している。

#### 【ポイント】

科学的に探究する力を育成するにあたっては、小、中学校で学習したことも踏まえ、自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を行うことが重要です。

### 重点2 日常生活や社会との関連を重視し、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる 目標1 目標2

- 科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや、安全性の向上に役立っていることを実感できる学習活動を設定している。
- 理科で学習することが様々な職業に関連していることを実感させる学習活動を設定している。

#### 【ポイント】

自然体験の大切さや日常生活や社会における科学の有用性を実感できるような学習場面を設定することにより、生徒が知的好奇心をもって主体的に探究しようとする態度を育てることが大切です。

NITS 学習指導要領に対応した学習評価

【小学校】



【中学校】



【高等学校】



小・中・高を通じて身に付けさせたい  
資質・能力（目指す子どもの姿） 目標3

- ◎自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を習得している。
  - ・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解
  - ・探究のために必要な観察、実験等の技能
- ◎観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。
  - ・自然の事物・現象の中から見通しをもって課題や仮説を設定する力
  - ・観察、実験し、得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する力と科学的な根拠を基に考えを表現する力
  - ・仮説の妥当性や改善策を検討する力
- ◎自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
  - ・自然事象に対する畏敬の念
  - ・自らの学習を調整しながら粘り強く挑戦する態度
  - ・日常生活との関連、科学の必要性や有用性の認識
  - ・科学的根拠に基づき多面的、総合的に判断する態度

## 理科における ICT の活用 目標4

ICTは理科の学習の一層の充実を図るための有用なツールです。「観察、実験の代替」ではなく、問題解決の過程（探究の過程）の中で、下記のポイントを参考にして活用する場面を積極的に設け、一層の資質・能力の育成につなげましょう。

児童・生徒が1人1台端末を活用する14のポイント

- |          |           |
|----------|-----------|
| ①情報を集める  | ⑧価値を高める   |
| ②事実を捉える  | ⑨考えを共有する  |
| ③学びを蓄える  | ⑩結果を整理する  |
| ④事象を繋げる  | ⑪自然に親しむ   |
| ⑤認識を深める  | ⑫結果を共有する  |
| ⑥問題を見いだす | ⑬感動を共有する  |
| ⑦根拠を見つける | ⑭気付きを共有する |

※左の下線①～⑭の数字は上記のポイントに対応しています。

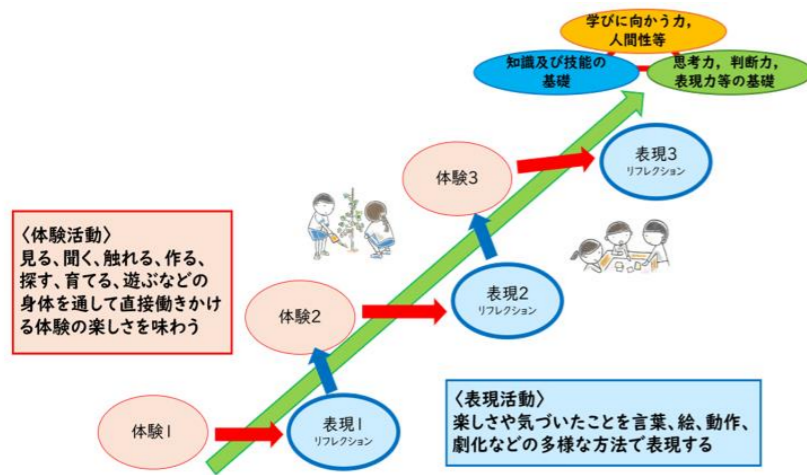
## 研修等について

- 小学校理科教育（基礎・基本）講座  
8月24日（月）島根県教育センター
- 小学校理科教育講座（理数枠採用5、6年目必修）  
9月11日（金）島根大学教育学部附属義務教育学校
- 中学校理科オンライン講座  
第1回：8月26日（水） 第2回：9月29日（火）  
第3回：10月21日（水） 第4回：11月23日（水）
- 中学校理科教育講座  
11月13日（金）島根大学教育学部附属義務教育学校
- 高等学校理科教育化学講座  
7月3日（金）松江東高等学校
- 高等学校理科教育生物講座  
12月11日（金）島根県教育センター、島根大学
- 科学の甲子園ジュニア島根県大会1次予選  
7月25日（土）場所 県内5会場
- 科学の甲子園ジュニア島根県大会2次予選  
9月12日（土）場所 県内2会場
- 科学の甲子園島根県大会  
10月17日（土）場所 島根県立出雲高等学校

## 小学校 生活

### ～子どもの「思い」から始まる、深い学びのサイクル～

学習指導の全体像：体験と表現のサイクル ※単発の活動で終わらず、「活動→振り返り→次への意欲」のサイクルを回します



**生活科の学習を通して身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）**

◎ **知識及び技能の基礎**  
活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

◎ **思考力、判断力、表現力等の基礎**  
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

◎ **学びに向かう力、人間性等**  
身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

### 重点1 子どもの「やりたい!」「もっと!」を形にする授業をつくる

- 子どもの「大好き」や「地域の宝」等を授業のスタートにする。
- 「これは自分に関係があることだ!」と子どもが思える工夫をする。
- 「やってみる（体験）」と「伝えてみる（表現）」のサイクルを回す。
- 他の教科の学習も生活科にミックスさせる。※右ページに詳細あり
- 幼児期の遊びから中学年以降の学習へ橋渡しする。

「幼児教育」と「小学校教育」がつながってどうなる? (幼児教育及び小学校教育関係者向けの参考資料) (文部科学省)

※「幼児期の遊びを通じた学び」と「生活科」とのつながりを意識した授業展開例が紹介されています。



◆地域のひと・もの・ことの中から、子どもたちがワクワクするような、その時期（季節）ならではの仕掛けを準備します。

◆子どもたちが「もっとこうしたい!」「自分ならこうする」と自分事として取り組める活動を大切にします。一人一人が自分の生活をよりよくしようと動き出す姿を目指しましょう。

◆「やってみようだった?（振り返り）」を挟んで、さらに「次はこうしよう!（次への意欲）」と活動を螺旋（スパイラル）状に繰り返します。この「体験」と「表現」の往復が、深い学びを生み出します。

◆生活科の活動中に、国語で習った言葉を使ったり、算数で学んだ教え方や比べ方を使ったりできるよう、教科の枠を緩やかにします。※右ページに詳細を紹介しています。

◆園で夢中になっていた遊びが、今の学びの土台になっていることを意識しましょう。同時に、今の活動が3年生からの社会や理科、総合的な学習の時間等での調べ方や考え方に繋がっていくことをイメージして授業を組み立てます。

### 重点2 子どもの気づきを深め、学びを豊かにする指導

- いろいろな考え方をどんどん試させる。
- 「誰に」「何のために」伝えるかを意識させる。
- みんなで見合う・振り返る場を大切にします。

StuDX Style GIGA スクール構想を浸透させ学びを豊かに変革していくカタチ (文部科学省)

※児童の発達の段階や特性を考慮した上で、ICT を活用した授業場面が紹介されています。



◆子どもが「あっ、見付けた!（見付けた）」「これとこれは似ているな（比べる）」「～みたいだ（たとえる）」「こうすればもっとうまくいかな（試す・工夫する）」と思える場面をたくさん作りましょう。こうした試行錯誤の繰り返しが、子どもの思考力を育てます。

◆「お家の人に」「友だちに」など伝える相手と目的をはっきりさせます。そうすると、子どもたちは、言葉だけでなく、絵、動作、劇など、「どうすれば一番伝わるか」を一生懸命考えるようになります。

◆一人一人の気づきをクラス全体で共有しましょう。友だちと見せあうことで新しい気づきが生まれます。この伝え合いと振り返りを挟むことで、自分自身への成長にも気付くことができるようになります。

### 重点3 子どもの「できた!」「気付いた!」を逃さず、次に生かす（指導と評価の一体化）

- 「どんな姿が見られると良いか」を子どもの具体的な行動や言葉で想定する。
- 全員の記録をする時間をあらかじめ決めておく。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）

※巻末資料の「内容のまとまりごとの評価規準（例）」及び「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に、小単元の評価規準を作成することができます。



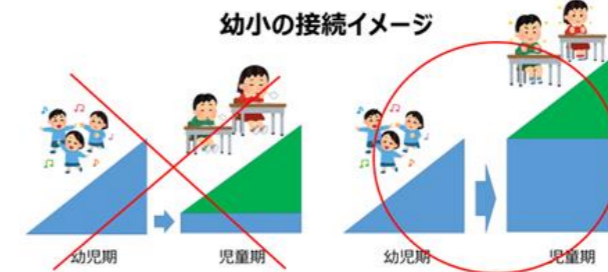
◆「～を理解する」といった難しい言葉ではなく、目に見える子どもの動きや言葉（具体的な姿）で評価規準を作りましょう。

◆毎時間、全員を評価して記録に残すことは現実的ではありません。単元の中で子どもの成長がよく見える場面（評価場面）をあらかじめ絞り込んで、計画表にメモしておきましょう。例えば、「発表の時間」や「観察カードを書く」など、子どもが思いを表現する場面は、評価の絶好のチャンスです。

## 生活科は幼児教育と小学校教育とをつなぐ中心教科

「例えば、水道から樋をつないで水を流そうとして、水がこぼれないような仕組みを幼児同士で何度も試したりすることや、自分たちで考えた話を人形劇にして年少の幼児に見てもらおうと、身近にある段ボールで舞台を作ったり、紙やテープなどの素材を生かして、色や形を工夫して飾りつけた小道具を作ったりすることなど、小学校以降の学習の基盤は幼児の姿の中に確かにある。そうした学びを、**小学校の生活科を中心とした学習において発揮できるようにし、児童の思いや願いをきっかけとして始まる学びが自然に他教科等の学習へとつながっていくようにすることが、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行することである。**」と小学校学習指導要領解説 生活科編（P62）で語られています。

幼児教育と小学校教育では違いはあるものの、子どもの育ちは連続しており、子どもの成長を切れ目なく支える観点から、子どもの立場に立ち、幼児教育の遊びを通して培った学びの上に、小学校教育を展開していく（右図）のような意識が重要です。



小学校の学びがゼロからのスタートではない。幼児期で培った力を土台として児童期につなげる。

島根県幼児教育センターでは、令和7年3月に「しまねの架け橋期の教育ガイド」を策定し、県内各小学校及び各幼児教育施設に配付しています（HPでも全ページ掲載しています【右二次元コード】）。



幼児教育と小学校教育との接続の鍵となる架け橋期に焦点を当て、架け橋期のカリキュラムや生活科を中心としたカリキュラムデザイン等について、右のように分かりやすく解説しています。

特に小学校入学当初においては、幼児期の自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科における学習に円滑に接続されるよう子どもの発達を踏まえ、生活科を中心に「合科的な指導」、「関連的な指導」や弾力的な時間割を設定する等、指導を工夫しましょう。

	タイプ(例)	カリキュラムにおける具体例
合科的な指導	生活科を中心とした単元の学習活動において、複数の教科の目標や内容を組み合わせることで、指導の効果を高める。	生活科の学校探検で気付いたこと等を言葉で表現したり、友だちと伝え合ったりする学習活動において、国語の資質・能力「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さ等を工夫すること」について指導することで、より効果的にねらいの実現を図る。
関連的な指導	【関連A】生活科の学習成果を他教科等の学習に生かす。	生活科で春の自然を観察したり、自然のもので遊んだりする体験が、音楽科で春の歌の曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くことに生かされるように関連を意識して指導する。
	【関連B】他教科等の学習成果を生活科の学習に生かす。	ものと数とを対応させてものの個数を比べたり、個数の順番を正しく数えたり表したり、算数科で育成する知識及び技能が、生活科の学校探検で見付けたものを数える際に生かされるように関連を意識して指導する。

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



- VI 小学校における取組（上記ガイドP.48～52）
- 2 生活科を中心とした学びのつながり
    - (1) 生活科の役割
    - (2) 生活科を中心としたカリキュラムデザイン
    - (3) 幼児期の経験を活かした教科指導



## 【小学校 音楽科】

## 【中学校 音楽科】

## 【高等学校 芸術科（音楽）】

### 重点1

育成する資質・能力を明確にし、指導と評価を一体的に考え題材を構想しましょう。

目標1 目標2

- 子どもの学びの視点に立ち、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、子どもを主語にした授業観をもっている。
- 題材における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を精選し、評価規準に位置づけている。
- 題材や本時のゴールの姿を思い描き、評価場面の精選、評価方法の工夫をし、児童の学習状況を把握して指導の改善を適宜行っている。
- 1年生において、幼児期の終わりまでに育て欲しい姿（幼稚園教育要領参照）をふまえた指導をしている。

- 子どもの学びの視点に立ち、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、子どもを主語にした授業観をもっている。
- 小学校音楽科との関連を十分に考慮し、題材における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を精選し、評価規準に位置づけている。また生徒が感性を働かせて感じ取ったことを基に、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習を行っている。
- 題材や本時のゴールの姿を思い描き、評価場面の精選、評価方法の工夫をし、生徒の学習状況を把握して指導の改善を適宜行っている。

- 子どもの学びの視点に立ち、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、子どもを主語にした授業観をもっている。
- 中学校音楽科との関連を十分に考慮し、特定の活動に偏らないようにするとともに、題材における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を精選し、評価規準に位置づけている。また、各領域や分野の関連を図っている。
- 題材や本時のゴールの姿を思い描き、評価場面の精選、評価方法の工夫をし、生徒の学習状況を把握して指導の改善を適宜行っている。

### 【ポイント】

児童一人一人の個性や興味・関心を生かした楽しい音楽活動（歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったり、音楽を聴いたりすること）を展開することが重要です。

### 【ポイント】

「知識」は単に新たな事柄として知ることに留まらず、要素などの働きについて実感を伴いながら理解し表現や鑑賞に生かすことができるようにすること、また音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して自己との関わりの中で理解することが重要です。「技能」は「思考力、判断力、表現力等」と関連付けながら、様々に変化する状況や課題に応じて主体的に活用できるものとして身に付けます。

### 重点2

「見方・考え方」を働かせることができる学習指導を行いましょう。

目標1 目標2

- 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることを支えとして、音や音楽を捉える場面を設定している。
- 音や音楽とそれらによって喚起される自己のイメージや感情との関わり、音や音楽と人々の生活や文化などの音楽の背景との関わりについて考えることによって、表現領域では、思いや意図をもって歌ったり楽器を演奏したり音楽をつくったりする活動を、鑑賞領域では、よさなどを見いだし味わって聴く学習を充実させている。
- 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけている。

- 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることや支えとして、音や音楽を捉える場面を設定している。
- 音や音楽とそれらによって喚起される自己のイメージや感情との関わり、音や音楽と生活や社会との関わり、音や音楽と伝統や文化などの音楽の背景との関わりなどを考えることによって、音楽表現を創意工夫したり音楽を解釈し評価したりするなどの学習を深めている。
- 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけている。

- 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることや支えとして、自ら音や音楽を捉える場面を設定している。
- 音や音楽とそれらによって喚起される自己のイメージや感情との関わり、音や音楽と文化的・歴史的背景などの関わりについて考えることによって、音楽表現を創意工夫したり音楽を解釈し評価したりするなどの学習を深めている。
- 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけている。

### 【ポイント】

対話的な場面のねらいを明確にし、他者との交流を通して、互いの気づきを共有したり、感じ取ったことに共感したりしながら児童生徒が個々の学びを深めたり広げたりしていくことが大切です。また、思考を活性化させたり、創意工夫したりする場面において ICT を効果的に活用しましょう。

### 重点3

「生活や社会の中の音や音楽（小）、音楽文化（中・高）と豊かに関わる資質・能力の育成」に努めましょう。

目標1

- 児童が自ら音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じたり味わったりしながら、様々な音楽に親しむような音楽経験を生かして、生活を明るく潤いのあるものにしようとするを大切に学習活動を展開している。

- 主体的、協働的な表現及び鑑賞の学習を通して、音楽表現を創意工夫して音楽で表したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする力を育成し、音楽科の学習を基盤として、中学校卒業後も音楽に親しんでいくことができるような態度を育てている。

- 主体的、協働的な表現及び鑑賞の学習を通して、表現意図をもって音楽で表したり、味わって聴いたりする力を育成し、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、学んでいること、学んだことの意味や価値などを生徒が自覚できるよう指導している。

### 【ポイント】

学ぶ楽しさや段階的な達成感、「この学びによってこんなことができるようになる」という見通しをもつことが、音楽や音楽活動に主体的に関わっていく態度を育みます。教師が音楽科の存在意義を理解し、学習の過程などで、音楽を学ぶ意味や生活や社会との関わりなどについて、解りやすい言葉で伝えていくことが大切です。

### 【ポイント】

生徒が、我が国の音楽に愛着をもちたり、我が国及び世界の様々な音楽文化を尊重したりできるようになることが大切です。また、音楽を学習する意義や価値が実感できるような学習評価を工夫します。

### 【ポイント】

音楽活動を通して、音や音楽のよさや美しさを感じ取るとともに、表現意図をもって音楽で表したり、味わって聴いたりする力を育成することによって、生涯にわたって生活や社会に生かしたいとする気持ちや態度を育むことが大切です。

### 小・中・高を通じて身に付けさせたい資質・能力（目指す子どもの姿）

目標3

- ◎曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性の理解と、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能。
- ◎自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くこと。
- ◎主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情。
- ◎感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度。

### 「指導と評価の一体化」

目標1

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所）には、学習評価の基本的な考え方、評価規準についての解説、題材に基づく学習評価についての事例が掲載されています。授業づくり、学習指導案作成等の参考資料となります。

【小学校】



【中学校】



【高等学校】



### 研修等について

- ♪ゼロから学びたい先生のための教科教育研修（中学校免許外教科；音楽編）  
4月28日（火）  
島根県教育センター浜田教育センター
- ♪小学校音楽科教育講座  
～鍵盤ハーモニカを主役にしたひとりひとりが輝く合奏指導 個の力が光る合奏づくり～  
8月24日（月）  
島根県教育センター浜田教育センター
- ♪中・高等学校音楽科教育講座  
～メンテナンスから指導まで 不安を自信に変える！ ギター基礎講座～  
10月9日（金）  
島根県教育センター浜田教育センター

### 音楽科における ICT の活用例

目標4

- 【児童生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫することが求められています】
- ① 自分の歌唱や演奏を音や動画で記録する
- ② 範唱・範奏の音源・動画を見ながら歌ったり楽器を演奏したりする
- ③ 歌詞や楽譜等をスクリーンに投影する
- ④ 声や楽器の音を可視化し、音楽表現を工夫する場面に用いる
- ⑤ 意見やアイデア等を集めたり交流させたりする
- ⑥ ワークシートや学習資料を電子データで配布、共有、回収、返却する
- ⑦ 端末やクラウドに保存された音楽をイヤホン等で聴く
- ⑧ 楽譜ソフトや作曲アプリ等で音楽をつくったり記録したりする
- ⑨ 外国語学習用アプリ等で外国語の歌詞の発音を音声で確認する（高）
- ⑩ テキストマイニングを用いて生徒の意見や着眼点などの傾向を表示する
- ⑪ モーションキャプチャ等で身体の使い方を分析する
- ⑫ 動画配信サイトで、様々な楽曲や演奏家による演奏を視聴する
- ⑬ 教室外の人や施設と連携しながら、表現したり鑑賞したりする
- ⑭ ウェブサイトなどから曲や曲の背景に関する情報を収集する
- ⑮ メトロノームやチューナーなど各種機能を活用する

## 中学校 技術・家庭科（技術分野）

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指します。

### 重点1 資質・能力を目指した指導計画と授業構成 目標1 目標2

- 技術分野の目標は単に「何かをつくること」ではなく、技術の見方・考え方を働かせ、実際の社会や生活における問題を解決する「資質・能力」を育むことであると理解している。
- 「技術による問題の解決」を通して、理解の深化や技能の習熟を図るとともに、技術によって課題を解決する力や、自分なりの新しい視点で解決策を構想しようとする態度を育むことを目指している。
- 1年生で内容A・B、2年生で内容C・D(1)(2)、3年生で内容D(3)(4)を扱う基本計画に加え、設計の過程を十分に確保し、小・中・高の連続性を配慮（特に小学校プログラミング教育との接続）した指導計画を立てている。
- 各指導計画は「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の3要素で構成し、3年間を通じてこれらが系統的に繋がるよう意識し、特に、「社会の発展と技術」を確実に実施している。
- 生徒が取り組む問題解決のレベルは、学年の進行に合わせて「既存技術の評価・選択・運用」から「改良・応用」へと高度化させ、第3学年では内容D(3)と他内容を組み合わせた「統合的な問題」を設定している。

#### 【ポイント】

技術分野の授業は「何かを楽しく作ること」が目的ではありません。これからの時代を生き抜いていく生徒に付けるべき力を学習指導要領をもとに正しく理解し、指導計画を見直しましょう。

### 重点2 技術分野の特質に応じた学習環境の整備とICT利活用 目標3 目標4

- 1人1台端末やクラウド環境を活用し、共同編集や相互参照などの学習形態を取り入れることで、自らの授業改善に取り組むと共に、生徒の情報活用能力を育成している。
- 3Dプリンタ、3D CAD、生成AIなど、現代の技術分野の特質に応じた新しい機器やコンテンツの整備・活用について検討し、実践に取り入れている。
- 作業環境を整備し、服装や衛生管理について指導するとともに、作業時の不慮の事故やけがに備え、緊急対応について確認し、生徒にも徹底して指導している。

#### 【ポイント】

“情報活用能力”は、“言語能力”、“問題発見・解決能力”等と並んで、学習の基盤となる資質・能力として学習指導要領に示されています。これらの力を教科等横断的に育成し、さらに授業で活用することで、生徒の力を伸ばしていきましょう。また、“社会の急速なデジタル化”への対応が技術分野に期待されています。内容D(3)に限らず、内容A～Cの中でも情報と関連させた学習を展開していくことが求められています。

### 重点3 指導と評価の一体化および指導力の向上 目標1

- 評価は、生徒の「自己実現」、教師の「指導改善」、そして社会へ「教育成果を示す」ためのものであると理解し、自校の3カ年計画に沿った「学習活動に即した評価規準」の作成手順を熟知している。
- 作成した評価規準を用いて実際に評価を行ったうえで、改めて指導計画を見直すサイクルを回し、指導と評価の一体化をさらに進めている。
- 県や市町村の技術・家庭科研究会など、様々な評価に関する研修の場に参加し、意見交換を行うことで指導力の向上に努めている。

#### 【ポイント】

国立教育政策研究所発行の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料や島根県教育委員会発行の「学習評価について【技術・家庭科（技術分野）】」等を読んで理解を深めましょう。

#### 資料【リンク】

- [指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料](#) [中学校](#) [技術・家庭編](#)（国立教育政策研究所）
- [中学校学習指導要領解説 技術・家庭編](#)（文部科学省）
- [中学校技術・家庭科（技術分野）事例集](#)（文部科学省）

## 高等学校 共通教科 情報

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指します。

### 重点1 体系的な情報教育を推進する 目標1 目標2

- 情報教育を、共通教科情報科だけが担うことなく、教科等横断的に情報活用能力を身に付けさせるように指導計画が立てられている。特に公民科及び数学科との連携については、学習指導要領に留意事項として記載されていることを理解している。
- 生徒がICT機器や情報通信ネットワークを適切に活用しながら表現をする活動を取り入れている。
- 情報活用能力をバランスよく身に付けさせるため、学んだ知識及び技術を活用し、情報に関する科学的な見方や考え方を養っている。
- 学校や生徒の実態に応じて、適切なソフトウェア、開発環境、プログラミング言語などを選択している。
- 社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響について指導している。

#### 【ポイント】

情報教育を考えるときには、共通教科情報科と他教科等の学習内容や学習活動との連携をよく検討してカリキュラム・マネジメントを行い、指導計画を立てることが大切です。他教科の学習指導要領との関連を正しく理解して指導計画を立てましょう。

### 重点2 発達の段階に応じた情報モラル教育の充実を図り、情報社会に主体的に参画する態度を育成する 目標3 目標4

- 日常的な出来事を取り上げ、個人情報の管理や情報モラルについて指導している。
- 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用し、生徒に情報の収集や処理をさせている。
- 情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせている。
- 情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などについて指導している。
- 情報モラルの向上のため、学校と家庭・地域が連携した取組を行っている。
- 著作権等の知的財産の保護等の情報及び情報技術を適切に扱うための知識と技能を習得させる指導を行っている。

#### 【ポイント】

学習指導要領には、小・中学校段階の基礎の上に、コンピュータや情報通信ネットワークなどを実践的に活用するとともに、情報モラル等についての指導の充実を図ることが明記されています。

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-cc.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



## 小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）

プログラミング教育で育む知識及び技能

- （小）身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付く。
- （中）社会におけるコンピュータの役割や影響を理解するとともに、簡単なプログラムを作成できる。
- （高）コンピュータの働きを科学的に理解するとともに、実際の問題解決にコンピュータを活用できる。

文部科学省有識者会議「議論の取りまとめ」より抜粋

## 研修等について

○教育センター研修

\* 中学校技術教育講座

[第1回] 6月26日（金）浜田教育センター

[第2回] 12月4日（金）島根県教育センター

・[第1回]は向田識弘先生を招いて指導と評価の一体化をテーマとした講義と演習，[第2回]は統合的な問題解決の事例について演習を行う予定です。技術分野について学ぶことができる貴重な研修ですので、経験年数を問わず参加できるような研修にしています。

\* ゼロから学びたい先生のための教科教育研修

（中学校免許外教科：技術・家庭編 技術分野）

4月28日（火）島根県教育センター・

島根大学教育学部附属義務教育学校

・従来の免許外で技術分野を担当される方を対象とした研修と合わせて、“初めて”や“久しぶり”に技術分野を担当いただく方向けの研修内容にしています。

\* AI時代のプログラミング教育実践講座

10月8日（木）島根県教育センター

・小学校、中学校、高校の系統性を踏まえたプログラミング教育について、最新情報も含めて分かりやすく解説・演習していきます。

\* 共通教科情報「情報Ⅰ」・「情報Ⅱ」講座（2回）

[第1回] 6月11日（木）浜田教育センター

6月12日（金）島根県教育センター

[第2回] 9月10日（木）浜田教育センター

9月11日（金）島根県教育センター

・情報科教育推進担当者を対象に情報Ⅰ・情報Ⅱの各分野に関して最新情報を含め分かりやすく説明していきます。また、各校の情報共有も行います。

### 【参考】小学校プログラミング教育のねらい

- [小学校を中心としたプログラミング教育ポータル](#)
- [小学校プログラミング教育の手引（第三版）](#)



## 小学校 家庭科

### 重点1 育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の一体化を図る 目標1

- 学習指導要領に示された目標及び内容、地域や学校及び児童の実態等を踏まえ、児童に育成する資質・能力を明確にしている。
- 生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成するために、自分の生活と結びつけて学習できるように、より身近な題材を設定し、学習計画を作成している。
- 学習計画を作成する際、次の点に留意している。
  - ・第5学年の最初に、学習の見通しを持たせるためのガイダンスを位置づける。
  - ・「家族・家庭生活についての課題と実践」をいつ、どのような内容と関連させて学習するのかを考慮して指導計画を作成する。
  - ・調理及び製作の実習題材は、指定された題材を含め、系統的に学ぶ題材になるように配慮する。
  - ・中学校の指導事項との系統性や他教科等との関連を意識している。
- 目標及び内容に則した指導と評価の計画を立てている。その際、評価規準を踏まえ、評価場面や評価方法を適切に設定している。
- 学習カード、計画・記録表、ポートフォリオ、作品(写真)等、多様な評価資料を活用して学習過程や成果を多面的に評価し、児童の学習改善、教師の指導改善に生かすよう努めている。

#### 【ポイント】

題材を構成する際には、基本的な教材で習得した基礎的・基本的な知識及び技能を応用的な教材で活用することを通して、児童が充実感や達成感を味わうことができるよう教材を工夫しましょう。

### 重点2 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 目標1 目標2 目標4

- 自ら問題を見いだして課題を設定し、解決の方策を探り、計画を立てて実践するという問題解決的な学習を取り入れるとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせることができる学習場面を設定している。
- 衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させている。
- ICTを積極的に活用し、学習の効果を高めている。
- 実践的・体験的な学習活動を充実させている。その際、児童の発達段階や学習のねらいを考慮するとともに、実習、観察、実験、体験など、それぞれの特徴を生かした適切な活動を設定している。
- 家庭や地域と積極的に連携している。
- 実験・実習を行うにあたっては安全管理への配慮、事故防止の指導を徹底している。食物アレルギーへの対応や家庭のプライバシーにも十分配慮している。

#### 【ポイント】

学習した内容を実際の生活に生かす場面を設定し、児童が、自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長を自覚して実践する喜びに気付いたりすることができる活動を取り入れましょう。

## 中学校 技術・家庭科（家庭分野）

### 重点1 育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の一体化を図る 目標1

- 学習指導要領に示された目標及び内容、地域や学校及び生徒の実態等を踏まえ、生徒に育成する資質・能力を明確にしている。
- よりよい生活を営むために生活を工夫し創造する資質・能力を育成するために、履修の順序や配当する時間数、具体的な指導内容を配列して、題材を適切に構成し、学習計画を作成している。
- 学習計画を作成する際、次の点に留意している。
  - ・第1学年の最初に、学習の見通しを持たせるためのガイダンスを位置づける。
  - ・「生活の課題と実践」については、生徒の興味・関心や学校、地域の実態に応じて、選択項目はどれにするか、どの内容と関連付けて扱うか、いくつ扱うかを計画する。その際、家庭や地域などで実践的な活動を行うことができるよう配慮する。
  - ・小学校や高等学校の指導事項との系統性、他教科等との関連を意識する。
- 目標及び内容に則した指導と評価の計画を立てている。その際、評価規準を踏まえ、評価場面や評価方法を適切に設定している。
- 学習カード、計画・記録表、ポートフォリオ、作品(写真)等、多様な評価資料を活用して学習過程や成果を多面的に評価し、生徒の学習改善、教師の指導改善に生かすよう努めている。

#### 【ポイント】

指導すべき内容に漏れがないよう、指導内容確認表等を用いて確認し、3学年間を見通した学習計画を作成しましょう。学習評価については、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）を読んで、理解を深めましょう。

### 重点2 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 目標1 目標2 目標4

- 自ら問題を見いだして課題を設定し、解決の方策を探り、計画を立てて実践するという問題解決的な学習を取り入れるとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせることができる学習場面を設定している。
- 衣食住に関する実習等の結果を整理し考察したり、言葉や図表、概念などを用いて考えたり説明したりするなどの学習活動の充実を図っている。
- ICTを積極的に活用し、学習の効果を高めている。
- 実践的・体験的な学習活動を充実させている。
- 家庭や地域社会、企業などと積極的に連携している。
- 実験・実習を行うにあたっては安全管理への配慮、事故防止の指導を徹底している。食物アレルギーへの対応や家庭のプライバシーにも十分配慮している。

#### 【ポイント】

学習した内容を実際の生活に生かす場面を設定し、生徒が、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりすることができる活動を取り入れましょう。

## 高等学校 家庭科（共通家庭）

### 重点1 育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の一体化を図る 目標1

- 学習指導要領に示された目標及び内容、地域や学校及び生徒の実態等を踏まえ、生徒に育成する資質・能力を明確にしている。
- 生涯を見通して主体的に生活を創造する資質・能力を育成するために、題材など内容や時間のまとまりを適切に構成し、学習計画を作成している。
- 学習計画を作成する際、次の点に留意している。
  - ・内容A(1)生涯の生活設計については、科目の導入として扱い、また内容A～Cと関連付けて科目のまとめとして扱う。
  - ・ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動を学習内容と関連を図り、年間指導計画に位置づける。
  - ・令和4年4月1日から成年年齢が引き下げられたことを踏まえ、消費生活に関わる内容を一層充実させる。
  - ・小学校・中学校の指導事項との連続性や系統性や他教科との関連を意識する。
- 目標及び内容に則した指導と評価の計画を立てている。その際、評価規準を踏まえ、評価場面や評価方法を適切に設定している。
- 学習カード、計画・記録表、ポートフォリオ、作品(写真)等、学習過程や成果を多面的に評価し、生徒の学習改善、教師の指導改善に生かすよう努めている。

#### 【ポイント】

学習評価の進め方については、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）を読んで、理解を深めましょう。

### 重点2 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 目標1 目標2 目標4

- 生活の中で活用する視点を明確にして、実践的・体験的な学習を行い、家庭生活の様々な事象の原理・原則を科学的に理解させている。
- 自ら問題を見いだして課題を設定し、解決の方策を探り、計画を立てて実践するという問題解決的な学習を取り入れるとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせることができる学習場面を設定している。
- 子どもや高齢者など様々な人々と触れ合い、他者と関わる力を高める活動、衣食住などの生活における様々な事象を言葉や概念などを用いて考察する活動等、思考力、判断力、表現力等の育成に資する学習活動を充実させている。
- ICTを積極的に活用し、学習の効果を高めている。
- 地域の福祉施設や消費者センター等との関係機関、専門的知識を有する外部人材等と連携している。
- 実験・実習を行うにあたっては安全管理への配慮、事故防止の指導を徹底している。食物アレルギーへの対応や校外の実習におけるプライバシーにも十分配慮している。

#### 【ポイント】

学習した内容を実際の生活や地域社会で生かす場面を設定し、生徒が、よりよい社会の構築等のために自分が社会に参画し貢献できる存在であることを認識することができる活動を取り入れましょう。

## 小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿） 目標3

- ◎ 自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能を身に付けている。
- ◎ 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生涯を見通して解決することができる。
- ◎ 相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を身に付けている。

## 研修等について

### ○ 研修

- \* ゼロから学びたい先生のための教科教育研修（中学校免許外教科：家庭編）  
5月1日（金）浜田教育センター  
・初めて免許外で家庭分野を担当して頂く方を対象とした必修研修です。
- \* 小学校家庭科教育講座  
～学習指導案でつながる「理論」と「実践」衣食住を入り口に家庭科のねらいを再発見！～  
10月30日（金）島根県教育センター  
※詳細は実施要項でご確認ください。

### ○ 参考資料

- \* 文部科学省ホームページ  
・ 学習指導要領解説  
・ 学習指導要領に関するQ&A  
・ StuDX Style
- \* 国立教育政策研究所ホームページ  
・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



<https://www.nier.go.jp/kaiatsu/shidouairyu.html>

- \* NITS（独立行政法人教職員支援機構）ホームページ  
・ 学習指導要領シリーズ改訂のポイント  
（小家 No. 10）（中家 No. 21）  
学習指導要領に対応した学習評価（小家 No. 43）（中家 No. 50）  
学習指導要領の改定のポイントと学習評価（高家：共通 No. 60，専門 No. 67）

<https://www.nits.go.jp/materials/youryou/>



- \* 消費者教育ポータルサイト  
<https://www.kportal.caa.go.jp/>



目標○は 子どもが「できた・わかった・やってみたい」を実感できる授業づくり の目標1～5との関連を表しています。

## 小学校 図画工作

### 重点1 育成する資質・能力が明確な授業を！

目標1  
目標2

- A表現の「造形遊びをする活動」を通して、児童自身が活動を思い付き、どのように活動するか考え、活動を工夫してつくる授業を行っている。
- A表現の「絵や立体、工作に表す活動」を通して、児童自身が表したいことを見付け、どのように表すか考え、表し方を工夫して表す授業を行っている。
- B鑑賞の「作品などを鑑賞する活動」を通して、児童自身が造形的なよさ、表したいことや表し方などについて感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる授業を行っている。

#### 【ポイント】

活動すること、作品をつくること、作品をみることが目標ではなく、その題材で、その授業でどんな資質・能力を身に付けさせたいのかという目標を明確にしましょう。

### 重点2 児童が造形的な見方・考え方を働かせる授業を！

目標2

- 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定している。
- 児童が友達に紹介したくなる、話し合いたくなる場面を**実態に応じて設定し**、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする活動を設定している。
- 学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業を進めている。

#### 【ポイント】

図画工作科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために、児童一人一人が造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実することが大切になります。

## 中学校 美術

### 重点1 育成する資質・能力が明確な授業を！

目標1  
目標2

- A表現の「絵や彫刻などに表現する活動」、「デザインや工芸などに表現する活動」を通して、生徒自身が主題を生み出し、表現の構想を練り、工夫して表す授業を行っている。
- B鑑賞の「美術作品などの見方や感じ方を広げる活動」、「美術の働きや美術文化についての見方や考え方を広げる活動」を通して、生徒自身がよさや美しさなどを感じ取り考え、見方や感じ方を広げる授業を行っている。

#### 【ポイント】

A表現では、「絵や彫刻など」、「デザインや工芸など」のそれぞれに描く活動とつくる活動を取り入れましょう。作品をつくること、作品をみることが目標ではなく、その題材で、その授業でどんな資質・能力を身に付けさせたいのかという目標を明確にしましょう。

### 重点2 生徒が造形的な見方・考え方を働かせる授業を！

目標2

- 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定している。
- 自己との対話を深めたり、[共通事項]に示す事項を**視点に**、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する価値意識をもって批評し合ったりする活動を取り入れている。
- 学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業を進めている。

#### 【ポイント】

表現と鑑賞を関連させながら、上述の項目を意識し主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を進めていくことが大切です。このことが、豊かな造形的な見方・考え方につながります。

## 高等学校 芸術（美術・工芸）

\*以下の文中（）内は工芸についての記述

### 重点1 育成する資質・能力が明確な授業を！

目標1  
目標2

- A表現の「絵画・彫刻」、「デザイン」、「映像メディア表現」（「身近な生活と工芸」、「社会と工芸」）を通して、生徒自身が主題を生成して(思いや願いなどから)発想や構想を練り、創意工夫して表す授業を行っている。
- B鑑賞の「美術(工芸)作品などの見方や感じ方を広げる鑑賞」、「美術(工芸)の働きや美術文化(工芸の伝統と文化)についての見方や感じ方を深める鑑賞」を通して、生徒自身がよさや美しさなどを感じ取り、考え、見方や感じ方を深める授業を行っている。

#### 【ポイント】

「内容の取扱い」を確認し、それぞれの教科において**育成する資質・能力が身に付くよう指導計画に適切に題材を位置づけましょう**。作品をつくること、作品を見ること目標ではなく、その題材で、その授業でどんな資質・能力を身に付けさせたいのかという目標を明確にしましょう。

### 重点2 卒業後も、生徒が造形的な見方・考え方を働かせる授業を！

目標2

- 題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定している。
- 他者の見方や感じ方の相違などを捉えて、対象の見方や感じ方を深める活動を取り入れ、[共通事項]に示す事項を**視点に**、価値意識をもって批評し合い討論する機会を設けている。
- 学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業を進めている。
- 学校を卒業した後も、美術や工芸を愛好することができるよう、その楽しさや大切さを伝えている。

#### 【ポイント】

見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞の活動の関連を図るなどして、科目の特質について理解するとともに、創造的な表現を工夫したり、美術(工芸)のよさや美しさを深く味わったりする過程を大切に学習の充実を図ることが重要です。

## 小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）

目標3

### ◎生活や社会の中の形や色など（小）、美術や美術文化（中・高）と関わる資質・能力

色や形との関わり方は人によってさまざまです。  
・絵を描く ・陶芸で器を作る ・美術館で作品をみる  
・自分に似合う洋服を選ぶ ・料理を美しく盛り付ける  
・美しい紅葉を見に出かける … など

生活の中で造形的な視点をもって身の回りの様々なものからよさや美しさなどを感じ取ったり、形や色彩などによるコミュニケーションを通して多様な文化や考え方に接して思いを巡らせたりすることで心豊かな生活を形成することにつながっていきます。

#### 図工・美術・工芸の授業を生活や社会とつなげる工夫

身の回りの環境や自然、家庭で周囲にある色や形をじっくりみて気がついたことを授業で共有する。また、授業でつくった作品を実際に家庭で使ってみて、他の人の使い心地を聞く。それを授業で発表し、新たな発想や構想に生かすなどが考えられます。図工や美術、工芸の学びを教室外に広げる工夫をしましょう。

注目!

### 造形的な見方・考え方を働かせるためには？

児童生徒が、造形を下の視点（造形的な視点）で捉えるような授業を！

目標1 目標4

- 【小学校1・2年】  
いろいろな形や色、触った感じなどを捉える
- 【小学校3・4年】  
形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを捉える
- 【小学校5・6年】  
動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉える
- 【中学校】  
・色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉える  
・材料の性質や質感を捉える  
・形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉える  
・形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉える  
・余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉える  
・全体のイメージや作風、様式などで捉える
- 【高等学校】…中学校を踏まえて

## 指導と評価の一体化の実現に向けて～学習評価を行う上で大切にしたいこと

### ①その題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする

図画工作科・美術科における「内容のまとまり」と「評価規準」との関係を確認し、**その題材を通してどんな力を身に付けさせたいのか**、学習指導要領の指導内容等を踏まえ、明確にしましょう。

### ②「おおむね満足できる状況」の姿を具体的に持つ

①を踏まえ、「おおむね満足できる状況」としてどのような姿が考えられるのかを具体的にイメージしておきましょう。その際、「おおむね満足できる姿」は一つではなく多様な姿となるため、教師が予測する姿だけで評価することのないように留意する必要があります。

### ③児童生徒の学習状況を把握し「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の場面や評価方法を十分検討する

日々の授業の中で児童生徒の学習状況を捉えて適宜指導することが大切です。その上で評価規準に照らして観点別学習状況の記録を取っていくことになります。毎回の児童生徒の全ての評価を記録するのではなく、**その児童生徒の資質・能力に対して状況を見取り指導する場面「指導に生かす評価」と、指導した結果の学習状況を捉える場面「記録に残す評価」とを計画しておきましょう。**

### ④多様な視点で学習状況を捉える

特に小学校においては一人一人の表現活動が目前で多様に展開されていきます。児童の学習状況を、活動に取り組む様子、発話、作品、ワークシートへの記述などから捉えることができます。必要に応じて対話したり発問したり作品と照らし合わせたりするなどして学習状況を捉えましょう。

ここで、②の姿の実現を捉えることが大事です。



※参照「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」

## オンラインで学ぶ図工・美術

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）をもとに、学習指導要領の改訂のポイントと学習評価について解説しています。

学習指導要領に対応した学習評価  
（小学校 図画工作科）

学習指導要領に対応した学習評価  
（中学校 美術科）

学習指導要領に対応した学習評価  
（高等学校芸術科（美術・工芸））



NITS 独立行政法人教職員支援機構

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）	☞ 目標3
<p>◎心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現(継続)する資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動やスポーツが楽しさや喜び、及び体力の向上につながることに着目し、「すること」だけでなく「みること」「支えること」「知ること」など、自己の適性等に応じて、授業を通して運動やスポーツとの多様な関わり方について考えたり実践したりすることができる。</li> <li>個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けて考えたり実践したりすることができる。</li> </ul>	

## 研修等について

- 中・高等学校体育実技研修

6月26日（金）

会場:出雲市総合体育館(だんだんとまとアリーナ)
- 内容：陸上競技，武道(剣道)，水泳，保健等
- 幼児期からの運動・体力向上指導者講習会

7月30日（木）

会場：県立浜山体育館（カミアリーナ）
- 内容：運動遊びの理論と実践
- 島根県学校ダンス授業研究会

7月31日（金）

会場：安来市民体育館
- 小学校体育実技研修

7月28日（火）

会場：鹿島総合体育館
- 内容：器械運動系，ボール運動系，保健等
- 中学校体育教員（ダンス）研修

10月22日（木）

会場：島根県立体育館

## 高等学校保健体育

### 重点1 生涯にわたり、計画的に運動やスポーツを継続する資質・能力を育成する！

☞ 目標1 ☞ 目標2

- 各単元の目標や本時における指導内容を，育成すべき資質・能力の三つの柱に沿って明確に示している。
- 生徒が考える場面と教師が教える場面を計画的に組み立て，課題を見付け，解決する学習活動を取り入れる指導がなされ主体的・対話的で深い学びを促している。
- オリンピック・パラリンピック等の国際大会に関する指導を通して，スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての理解につなげている。
- 【☞ポイント】

学習の成果が，関連の教科や特別活動など，他の教育活動と結び付き，日常生活で生かされるよう学校の教育活動全体との関連を図り指導計画を作成することが大切です。

仲間との伝え合いの場や機会を工夫することによって，自他や社会の課題発見やその合理的，計画的な解決につなげていくことが大切です。

### 重点2 生涯を通じて自他や社会の健康・安全に関する課題を解決していく資質・能力を育成する！

☞ 目標1 ☞ 目標2

- 健康・安全について適切な健康観察や休憩の実施，定期的な設備・用具の点検等を行い，安全の確保を心掛けている。
- 健康・安全について自他の健康やそれを支える環境づくりに関心が持てるような学習活動を取り入れている。
- 心肺蘇生法等の応急手当について，実習を通して，概念や原則の理解，方法や手順の習得ができるよう指導している。
- 【☞ポイント】

健康な生活と運動やスポーツとのかかわりを深く理解し，知識の習得を重視した上で，知識を活用する学習活動を積極的に行うことが大切です。

### 重点3 3年間の見通しをもち、生徒の実態に基づいた指導計画を作成する！

☞ 目標3 ☞ 目標5

- 地域や学校の実態，中学校との関連，生徒の特性等を十分に考慮し，「体育」及び「保健」の指導内容の関連や，体育的行事等との関連について卒業までの見通しをもった計画を立てている。
- 運動やスポーツとの多様な関わり方を選択し，卒業後も継続できる運動の計画を立てたり，健康課題を認識し，科学的に思考・判断し，適切に対処したりできるよう指導している。
- 体力や技能の程度，性別や障がいの有無，目的等の違いを越えて，運動やスポーツの多様な楽しみ方を卒業後も社会で実践することができるよう，共生の視点を重視して指導している。
- 【☞ポイント】

小学校から高等学校までを見通して，系統性を踏まえた指導内容の見直しや重点化を図ることが大切です。

## 中学校保健体育

### 重点1 運動やスポーツに親しみ、多様な関わり方を実践する資質・能力を育成する！

☞ 目標1 ☞ 目標2

- 各単元の目標や本時における指導内容を，育成すべき資質・能力の三つの柱に沿って明確に示している。
- 体を動かす楽しさを味わうとともに，運動やスポーツの習慣化につながるよう意識して指導している。
- オリンピック・パラリンピック等の国際大会に関する指導を通して，スポーツの意義や価値等の理解につなげている。
- 「何のために」その運動を行うのかという汎用的な知識をもとに，「どのように」体を動かすかという具体的な知識を理解することで「わかる」と「できる」を関連させた「知識及び技能」の習得となるよう意識して指導している。
- 【☞ポイント】

保健分野や体育理論との関連，教科外活動や学校生活全体を見通した教育課程の工夫を図ることが大切です。

仲間との伝え合いの場や機会を工夫することによって，自他の課題発見やその合理的な解決につなげていくことが大切です。

### 重点2 心身の健康を保持増進し、個人生活における健康・安全についての課題解決につながる資質・能力を育成する！

☞ 目標1 ☞ 目標2

- 健康・安全について自他の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える場面を設定している。
- 欲求やストレス対処，応急手当等の実習を通して，健康課題の解決に関わる技能習得を図っている。
- 【☞ポイント】

体育分野との関連を図り，小学校・高等学校の内容を踏まえた系統性のある指導が大切です。

### 重点3 3年間を見通した指導計画を作成し、指導場面を工夫する！

☞ 目標3 ☞ 目標5

- 各分野の特質を踏まえ，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習場面を設定し，単元ごとに資質・能力の三つの柱に対応した指導内容・学習活動を計画的に位置付けている。
- 学校や地域の実態，生徒の心身の発達の段階や小学校並びに高等学校との系統性を考慮し，計画を立てている。
- 共生の視点を大切にし，体力や技能の程度，性別や障がいの有無等にかかわらず，運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導している。
- 【☞ポイント】

指導のねらいに応じて，授業の中で生徒の学びを振り返り，学習や指導の改善に生かすPDCAサイクルを確立することが大切です。

## 小学校体育

### 重点1 指導内容を明確にして運動の楽しさや大切さを味わえる授業を工夫する！

☞ 目標1 ☞ 目標2

- 各単元の目標や本時における指導内容を明確に示し，児童が学習の見通しや授業のゴールイメージをもてるようにしている。
- 易しい運動，思わずやってみたくなる運動から始め，少しずつ難しくすることにより「できそう」「もっとうまくなりたい」などの思いや願いを膨らませるとともに，目標達成に向けた自己の課題が生まれるような活動を準備している。
- オリンピック・パラリンピックに関する指導として，各運動領域の内容との関連を図り，フェアなプレイを大切にするなど，児童の発達の段階に応じて，運動を通してスポーツの意義や価値等に触れることができるようにしている。
- 【☞ポイント】

運動が苦手・意欲的でない児童への指導では，特に個に応じた指導の工夫を図り，運動の楽しさを味わえる場面を保証するとともに，児童が互いを理解し，受け入れ合いながら一緒にうまくなったり課題を解決していったりする過程が大切です。

仲間との伝え合いの場や機会を工夫することによって，自己の課題発見やその解決について表現する学習場面を設定しましょう。

### 重点2 身近な生活における健康・安全についての基礎的な内容を重視し、健康な生活を送る資質・能力の基礎を培う！

☞ 目標1 ☞ 目標2

- 健康・安全に関心がもてるようにし，健康に関する課題を解決する学習活動や外部人材等との連携・協力を図るなどの指導方法を工夫している。
- 児童が運動と健康が密接に関連していることについて具体的な考えをもてるように，運動領域と保健領域との関連を図った学習活動を工夫している。
- 【☞ポイント】

学びの深まりをつくり出すために，児童が考えたり伝え合ったりする場面と教師が直接指導する場面を効果的に組み立てることが大切です。

### 重点3 カリキュラム・マネジメントの視点から、「学校における体育・健康に関する指導」との関連を考慮する！

☞ 目標3 ☞ 目標5

- 児童の発達の段階を踏まえて，学習したことを実生活や実社会に生かすとともに運動の習慣化につなげようとしている。
- 幼児期並びに中学校との接続を重視し，系統性を踏まえた指導内容の一層の明確化が図られている。
- 共生の視点を大切にし，体力や技能の程度，年齢や性別及び障がいの有無等にかかわらず，運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方を共有することができるよう指導している。
- 【☞ポイント】

学習指導要領の総則第1の2の(3)「学校における体育・健康に関する指導」の視点から，国や県の体力・運動能力，運動習慣等調査結果などを用いて児童の現状等を的確に把握し，学校や地域の実態を踏まえて組織全体で計画的・継続的に指導することが大切です。

★各領域の指導資料について
<p>□学級や児童の実態，各校の年間指導計画に応じて，単元の目標や活動内容等を工夫しながら指導しましょう。</p> <p>【参考資料】</p> <p>○<a href="#">学校体育実技指導資料集一覧(文部科学省)</a></p> <p>○<a href="#">小学校体育(運動領域)指導の手引～楽しく身に付く体育の授業～(スポーツ庁)</a></p> <p>○<a href="#">学校保健，学校給食，食育(文部科学省)</a></p>

★学習評価について	☞ 目標1 ☞ 目標4
<p>□3観点について，単元全体を見通して，いつ，どの場面で，何をどのように見取るのか，具体的な「指導と評価の計画」を作成し，1時間ごとの評価の重点を1～2観点にするなど，無理のない評価計画を立て，指導と評価の一体化を図りましょう。</p> <p>【参考資料】</p> <p>○「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)</p> <p><a href="#">小学校 体育編(PDF)</a> <a href="#">中学校 保健体育編(PDF)</a> <a href="#">高等学校 保健体育編(PDF)</a></p>	

★体育・保健体育の指導におけるICTの活用について	☞ 目標1 ☞ 目標4
<p>□ICTの活用が目的化しないよう資質・能力の向上及び育成のための補助的な手段であることを意識しましょう。</p> <p>□効果的なソフト・プログラムの活用や，ねらいを明確にした活用に留意し，ICTの活用が活動(運動学習，認知学習)そのものの低下を招かないようにしましょう。</p> <p>【参考資料】</p> <p>○児童生徒の1人1台のICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集(スポーツ庁)</p>	

目標5との関連は，URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-cc.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



## 小学校 外国語活動・外国語（英語）

### 重点1 目標と指導と評価の一体化を図る 目標1

- 「英語を使って何ができるようになるか」を明確にし、児童が学習の見通しを立て、振り返りができる単元計画を立てている。
  - 児童が自らの学びの変容を自覚し、自立的に学習を調整（自己調整）できるよう、評価することを指導している。
  - 単元ゴールにおける評価指標を児童と共有し、自己評価や相互評価を次の学習改善につなげている。
- 【ポイント】
- 単元ゴールにおける児童の姿を具体的に描き、「目標と指導と評価の計画」に基づきながら、児童が「自らの成長とその理由」が説明できる指導を工夫します。

### 重点2 目的意識や相手意識のある言語活動の充実

#### 目標2

- 自分の考えや気持ちを含め、単語や一文で終わらせず、2～3文で話す活動を段階的に積み重ねている。
  - Small Talk を計画的に行い、既習表現を繰り返し活用させるとともに、「追い質問」などの対話の続け方を指導している。
  - デジタル教科書や AI を活用し、個別に発音練習や表現のブラッシュアップを行う場面（個別最適な学び）を設定している。
- 【ポイント】
- 児童が「誰に」「何のために」伝えたいかを明確にした場面を設定し、必然性のあるコミュニケーションを目指します。録画した自身のパフォーマンスを客観的に振り返ることも、表現の質や相手意識を高めるために有効です。

### 重点3 小・中の学びを円滑に接続させる

#### 目標3

- 音声十分に慣れ親しませることを重視し、原稿を見ずに「話す」指導をベースにしている。
  - 「読む・書く」の指導を急ぎすぎず、アルファベットの認識から段階的に、丁寧に時間をかけて指導している。
  - 中学校のパフォーマンステストや学習内容の情報を共有し、連携を図っている。
- 【ポイント】
- 小学校では「音声の基盤」をしっかり作ることが最優先です。音声で馴染んだ表現のみを「読む・書く」対象とすることで、児童の学習負担を軽減し、中学校での「キーワードをもとにした発信」へとつなげることが大切です。

## 中学校 外国語（英語）

### 重点1 目標と指導と評価の一体化と発信力の強化

#### 目標1

- 「目標と指導と評価」の計画に基づき、生徒が自身の課題を把握・調整できる指導を行っている。
  - パフォーマンステストでは、既習事項を活かせる「初出の英文」等を用い、受信力や即興的な発信力を見取っている。
  - MEXCBT を授業や家庭学習、テストに活用し、特に課題となっている「話す・書く」力の強化を図っている。
- 【ポイント】
- 評価の具体指標を教師間で共通理解し、生徒が自らつまずきを克服できるようフィードバックを行います。生徒自身が自分の学びをコントロールできる「自律的な学習者」を目指します。

### 重点2 領域統合的な言語活動の充実

#### 目標2

- 日常的な話題から社会的な話題まで広げ、自分の考えや理由を論理的に構成して、伝える活動を行っている。
  - 聞いたり読んだりした内容について、自分の意見や感想を即興で伝え合ったり、まとまりのある文章で書いたりする領域統合的な活動を行っている。
  - ICT や AI を活用し、領域統合的な言語活動の量を確保するとともに、見直しや振り返りを充実させている。
- 【ポイント】
- 生徒が興味・関心をもつテーマを設定し、既存の知識を活用しながら論理を組み立てる活動を重視します。小学校で習得した定型表現を活用します。

### 重点3 小学校からの学びを土台とした段階的な指導

#### 目標3

- 小学校の既習事項（語彙・表現）を、新たな文脈で繰り返し活用させることで、定着と流暢性の向上を図っている。
  - 中1 初期段階では、小学校での音声中心の活動を継続しつつ、綴りと関連付けた丁寧な文字・文法指導へと段階的に移行している。
- 【ポイント】
- 小学校で培われた「聞く・話す」力を活かしつつ、中学校で課題になりやすい「綴りと音の結びつき」や「文構造の意識」を、実際のやり取りの中で意識させる指導が大切です。さらに小学校の学びが「役に立った」と生徒が実感できる接続を目指すことが大切です。

## 高等学校 外国語（英語）

### 重点1 目標と指導と評価の一体化とデジタル学習基盤の活用 目標1 目標4

- 「CAN-DO リスト」に基づき、生徒がゴールイメージを明確にもち、自らの変容を自覚できるよう、「目標と指導と評価」を一体的に行っている。
  - パフォーマンス評価の結果を生徒と共有し、生徒が自身の課題や取組を再設定して、学び方を調整できるよう支援している。
  - ICT（ツール）を活用し、特に課題となっている「話すこと」「書くこと」の個別最適な練習の場面を設けている。
- 【ポイント】
- 生徒が「何を学んだか」だけでなく、「どのように学べば目標を達成できるか」という学習戦略を身に付けられるように段階的に指導します。効果的に AI や ICT ツールを活用する場面も単元内に位置付けましょう。

### 重点2 論理的な発信力を高める言語活動の充実

#### 目標2

- 授業は「英語で行うことを基本」とし、生徒が英語で思考し、表現を工夫して発信する機会を最大化している。
  - 社会的な話題について、読んだり聞いたりした内容を整理し、自分の考えを再構築して伝える領域統合的な活動を行っている。
  - 特に「論理・表現」において、批判的思考や論理性のある発信を重点的に育成している。
- 【ポイント】
- 生徒が「深く考えたい」「意見を交換したい」と感じる社会的な話題を扱い、必然性のあるコミュニケーションが生まれる場を設定します。定型文の暗記に留まらず、目的に応じて生徒が自分の言葉で論理を組み立てるプロセスの指導が重要です。

### 重点3 中高の円滑な接続と自律的な学習者の育成

#### 目標3

- 中学校までの既習事項を、社会的な話題などの新たな文脈で繰り返し活用させ、表現の定着と流暢性の向上を図っている。
  - 地域の小・中学校との情報交換や授業交流を通じ、校種を越えて指導内容・方法の共通理解に努めている。
- 【ポイント】
- 中学校で学んだ知識の活用・探究という学びの過程で、より深く思考し問題解決に向かう場面を意図的に作ります。また、生徒が自分の課題に合わせて自律的に ICT ツール等を選択し、学びを調整できる環境を整え、生涯学び続ける態度を育成することが大切です。

「英語教育実施状況調査」調査項目は国が英語教育で重視している内容や今後改善していくべき点を示しています。自校の重点設定の参考としてください。



(小学校)外国語科において、「読むこと」「書くこと」の指導はどの程度まで行うのでしょうか。  
(中学校)小学校で外国語教育が早期化・教科化されたことを踏まえ、中学校の指導においてどのような点に留意すればよいですか。  
上記2点を含む適切な指導を行うために押さえるべき14のポイントは、以下を参照してください。  
平成29年改訂の小・中学校学習指導要領に関するQ&A(外国語、外国語活動に関すること)：文部科学省



### 小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿） 目標3

- ◎ 外国語による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる知識及び技能を身に付けている。
- ◎ 外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するとともに、理解した情報や考えなどをもとに適切な語彙や表現を用いて論理性に留意しながら表現したり伝え合ったりすることができる。
- ◎ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

### 「言語活動」とは

文部科学省  
説明スライド 「言語活動を通して」の具体（動画）

### 小中連携の必要性とポイント

文部科学省

### 文部科学省 CBT システム (MEXCBT) 目標4

英語4技能をバランスよく育成する観点から特に課題となっている「話すこと」「書くこと」の力の強化に向けて、MEXCBTにCEFRレベルと紐づけたCBT問題が100問が搭載されています。各学校において、これらの問題を、授業・家庭学習・パフォーマンステスト等の実施に積極的に活用してください。

### 学習者用デジタル教科書について 目標4

全ての小・中学校に英語のデジタル教科書が頒付されています。児童生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図る外国語科における指導にとって大切な役目を果たします。活用する際には、「言語活動を中心とした単元の中でどのように使うか」「児童生徒の変容につながっているか」など、資質・能力の育成につながるよう指導することが大切です。  
[学習者用デジタル教科書について：文部科学省 \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp/)

○しまねの教育情報Web (EIOS) に学習指導案や文部科学省 YouTube 公式チャンネルへのリンク等を掲載していますので参考にしてください。  
[外国語 |しまねの教育情報Web EIOS | 島根県教育庁](https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/)

### 研修等について

- 小学校外国語教育講座  
6月10日(水) 島根県教育センター  
浜田教育センター
- 中・高等学校外国語教育講座  
10月23日(金) 島根県教育センター
- 外国語指導助手 (ALT) の指導力等向上研修  
2月5日(金) 出雲合同庁舎

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



## 高等学校〔農業、工業、商業、水産、家庭、福祉、情報、芸術（書道）〕

### 高等学校 農業

☞目標1

#### 重点1 各科目の指導の充実

☞目標4

- 本時のねらいや到達目標が明確になっており、主体的に学習活動に取り組めるよう工夫している。
- 資格取得の指導を通して、学習意欲の向上を図っている。
- ICT を効果的に活用し、授業改善を図っている。
- 「主体的・対話的で深い学び」に繋がる工夫をするとともに、学びの質の検証と改善を定期的に行っている。
- GAP や HACCP に関する学習内容を充実させ、安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対する意欲の醸成に取り組むとともに、安全教育の徹底と PDCA サイクルによる見直しを行っている。
- 観点別学習状況評価の方向性を事前に生徒と共有し、生徒の学習改善及び教師の指導改善につなげている。

#### 【☞ポイント】

農業や農業関連産業を通して地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成できるように学習内容等の改善・充実を図るため、適切なタイミングで「指導と評価」を行い、その結果に基づいた指導を実施することが重要です。

#### 重点2 農業教育の諸課題への対応

☞目標2

☞目標3

- 各校の伝統・地域のもつ多面的な特質をいかした学校づくりに取り組んでいる。
- 各科目の指導を通じて、地域社会を意識できる指導上の工夫をしている。
- 地域の特色や課題を取り入れた課題解決型学習を継続的に実施している。
- 小・中学校と連携した学習活動により農業教育の魅力を直接伝えている。
- 教育活動を客観的に評価し、組織的に改善に取り組んでいる。

#### 【☞ポイント】

教育の魅力化が進む中、取組への改善を行い、農業教育をとりまく諸課題に対応することが求められます。

☞目標1

#### 重点3 各関係機関との協力体制の充実

- アグリマイスター顕彰制度について校内で周知されている。
- 学校の実態に応じた農業クラブ活動が行われている。
- 県の農林水産部局・市町村・JA 等の関係団体等と連携して、積極的に実践的な学習活動に取り組んでいる。

#### 【☞ポイント】

農業教育の充実には、関係機関等との連携・協働が重要です。

### 高等学校 工業

#### 重点1 各科目の授業で資質・能力を確実に育成するための授業改善を行う

☞目標1

☞目標4

- 本時のねらいや到達目標を明確にしている。
- 単元の学びと社会とのつながりを意識した展開の工夫を取り入れている。
- 観点別学習状況評価を、生徒の学習改善及び教師の指導改善につなげている。（生徒との共有）
- 生徒の興味・関心や理解を深めるために、ICT を効果的に活用している。
- 生徒同士の対話など、「主体的・対話的で深い学び」につながる工夫を単元の要所で取り入れている。
- 技術者として求められる倫理観の醸成と結びつけて指導を行っている。
- 資格の取得を科目の目的とはしていない。（資格は成果のひとつである）

#### 【☞ポイント】

グランドデザインを踏まえた学習内容となっているかを意識すること、また、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続可能な発展を担う職業人を育成するため、各科目において適切なタイミングで妥当性のある評価を実施し、その結果を基に指導方法を改善することが重要です。

#### 重点2 課題研究において探究的な学びを

##### 実現させる

☞目標2

☞目標3

- 生徒がこれまでに学んだ専門的な知識・技術を活用しながら解決できる課題設定の工夫を取り入れている。
- 課題を自分のものとするため、生徒が十分に調査を行ったり、自己の在り方や生き方と関連づけて考えたりしている。
- 地域や産業界と連携しながら課題解決に取り組んでいる。
- 課題の解決を図る実践的・体験的な学習活動を充実させている。
- 実験・実測で得られた結果について科学的に分析したり、法的な側面から判断したりしている。
- 「計画→実行→評価→改善」による PDCA サイクルを通じて課題を解決している。
- 生徒が研究成果を発表する場を設定するとともに、振り返りの指導を行っている。

#### 【☞ポイント】

習得・活用・探究という学びの過程を通じ、生徒の専門的な知識・技術の深化・統合化を図ることができるよう、指導方法の工夫・改善を行っていくことが重要です。

### 高等学校 商業

☞目標1

☞目標2

☞目標4

#### 重点1 資質・能力を育成するために授業改善を行う

- 本時のねらいや到達目標を明確にしている。
- 観点別学習状況評価の方針を事前に生徒と共有する場面を設けている。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が図られるよう、言語活動の充実や ICT の活用が積極的に取り入れられている。
- 授業と家庭学習を連動させている。
- ビジネスに関する具体的な課題を設定し、地域や産業界と連携して、様々な情報を収集・分析・評価し、発表するなどの学習活動を取り入れている。
- マーケティング分野において、流通を見据えた商品開発に関する課題を設定し、マーケティングに関する知識と技術を活用して市場調査を行い、その結果に基づいた商品企画書を作成し、地域や産業界にプレゼンテーションを行うなどの学習活動を取り入れている。
- マネジメント分野において、経済の動向について、具体的な事例を取り上げ、経済や法規などの知識を活用して、考察や討論を伴う学習活動を取り入れている。
- 会計分野において、財務指標の具体的な例を用いて、会計に関する知識と技術を活用して企業の実態の分析を行い、その結果を表現するなどの学習活動を取り入れている。
- ビジネス情報分野において、ビジネスに関する情報を処理する課題を設定し、情報の処理や活用に関する知識と技術を用いて情報の収集・処理・分析を行ったり、ICT を効果的に活用した提案書等を作成してプレゼンテーションを行ったりしている。
- ①知識や技術などを身に付ける→②実際のビジネスを理解する→③企画力や創造力を養う→④実社会で実践する力を磨く、といった商業の学びの流れを意識している。

#### 【☞ポイント】

商業科の学習内容が学校のグランドデザインを踏まえたものになっているか、適切な「指導と評価の計画」が作成されているか、新科目の指導領域や配当時間が学習指導要領に基づくものになっているかの確認が大切です。

#### 重点2 課題研究の意義

☞目標3

- 観点別学習状況評価の方針を事前に生徒と共有する場面を設けている。
- 「課題研究」を「総合的な探究の時間」に代替する場合は、探究のプロセスを取り入れている。課題の設定については、“商業に関する”課題を設定している。

#### 【☞ポイント】

習得と活用を繰り返す探究的な学びにより専門的な知識・技術の深化・統合化を図ることが大切です。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料〔国立教育政策研究所〕→



### 高等学校 水産

#### 重点1 授業改善と検証

☞目標1

☞目標4

- 授業改善と検証を随時行っている。
- 本時のねらいと目標を明確にしている。
- 観点別学習状況評価の方針を事前に生徒と共有する場面を設けている。
- ICT を効果的に活用した授業を意図的・計画的に行っている。

#### 【☞ポイント】

水産業や海洋関連産業を取り巻く状況の変化を踏まえ、タブレット端末等を利用した学習を行うことにより生徒の関心や理解を深めるとともに、進路並びに地域との協働に向けた目的意識を高める指導方法の確立が重要です。

☞目標2

#### 重点2 水産教育の諸課題への対応

☞目標3

- 地域や小・中学生に向けて水産教育の魅力を定期的に発信している。
- 地域や関連企業と連携し、学習活動の深化や改善を行っている。
- 課題研究に対する取組を計画的・継続的に行っている。
- PDCA サイクルを通じた安全教育の徹底と見直しを行っている。
- グランドデザインを踏まえた学習計画の設定や取組がなされている。

#### 【☞ポイント】

「指導と評価の一体化」を行うために、適切な「指導と評価の計画」を作成し、観点ごとに総括を行うことが大切です。

☞目標1

#### 重点3 実習船教育の充実

☞目標2

- 指導教官として船上で行うべきことについて理解し、主体的・能動的な実習生を育てるように実習船教育を行っている。
- 長期乗船実習に関する事前指導を実習生に行い、保護者に対し説明会を実施している。
- 乗船前、乗船中徹底した感染症予防教育及び対策を行い、安全な乗船実習に取り組んでいる。
- 安全管理の徹底と見直しを行い、報告を行っている。（PDCA サイクルの活用）
- HP 等を通じて実習船における学習活動を外部や保護者に発信している。

#### 【☞ポイント】

乗船指導は、両校、練習船との連携を密に図り、周到な指導計画に基づいて行う必要があります。

#### 研修等について

\* 高等学校産業教育実技（水産）講座

8月3日（月）開催予定

## 高等学校 専門家庭

### 重点1 各科目で育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の一体化を図る

- 学習指導要領に示された目標及び内容、地域や学校及び生徒の実態等を踏まえ、生徒に育成する資質・能力を明確にしている。
- 生活の質の向上と社会の発展を担う職業人の育成を目指し、題材など内容や時間のまとまりを適切に構成し、学習計画を作成している。
- 目標及び内容に則した評価規準を踏まえ、評価場面や評価方法を適切に設定している。
- 学習過程や成果を多面的に評価し、生徒の学習改善、教師の指導改善に生かすよう努めている。

#### 【ポイント】

学習評価の進め方については、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）を読んで、理解を深めましょう。「主体的に学習に取り組む態度」について、家庭科では「粘り強さ」、「自己調整」に加え、「実践しようとする態度」も評価します。

### 重点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

目標1 目標2 目標4

- 生活産業に関わる実習や就業体験活動、資格取得やコンテストへの挑戦など、自ら学ぶ意欲を高める学習活動を取り入れている。
- 自ら課題を発見し、解決の方策を探り、計画を立てて実践するという問題解決的な学習を取り入れている。また、課題の解決に当たっては、職業人に求められる倫理観を踏まえ、合理的（関連する法規に基づき）かつ創造的に解決できるよう取り組んでいる。
- 問題解決的な一連の学習過程の中で、家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせることができる学習場面を設定している。
- 自分の考えや情報を的確に伝えたり、まとめたりする活動、与えられたテーマに対して互いの考えを伝え合い、イメージをまとめ適切に表現する活動など、言語活動の充実を図る学習活動を指導計画に位置付けている。
- 最新の知識や技術を身に付けたり、望ましい勤労観や職業観を育成するために、地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動を取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫をしている。
- ICTを積極的に活用し、学習の効果を高めている。
- ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を積極的に活用している。

#### 【ポイント】

知識及び技術を習得して活用できるようにするために、学習活動を工夫することが大切です。実践的・体験的な学習活動を充実させましょう。なお、実験・実習を行うに当たっては、施設・設備の安全管理や衛生管理、事故防止の指導を徹底しましょう。

## 高等学校 福祉

### 重点1 指導と評価の一体化を！

目標1

- 学習指導要領に示された目標及び内容、地域や学校及び生徒の実態等を踏まえ、生徒に身に付けさせたい力を明確にして指導と評価の計画を立てている。
- 「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づいた観点別学習状況の評価の考え方について理解を深め、評価規準を適切に設定している。
- 学習過程や成果を多面的に評価し、生徒の学習改善、教師の指導改善に生かすよう努めている。

#### 【ポイント】

まずは、国立教育政策研究所発行の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料を見て、理解を深めましょう。

### 重点2 各科目で育成を目指す資質・能力を明確にして、指導計画を作成する！

目標2

- 知識や技術を断片的に学習させるのではなく、実践的・体験的な学習を通して、活用できる知識と技術が総合的に身に付くよう指導計画を工夫している。
- 身に付けた知識及び技術などを活用して、福祉に関する課題を協働して分析、考察、討論を行い解決するなどの学習活動を通して、言語活動の充実を図っている。
- 資格取得やコンテストへの挑戦などを通じて自ら学ぶ意欲を高める学習活動を取り入れている。

#### 【ポイント】

福祉科で育成をめざす資質・能力は、福祉の見方・考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うこと等を通して育成されます。多様な学習活動を効果的に取り入れましょう。

### 重点3 実験・実習等の学習、地域や産業界等の連携・交流、ICT活用を意図的・計画的に行う！

目標4

- 知識・技術の確実な習得や学習への動機付け・学習意欲の向上、実践的な技術の習得、勤労観や職業観の育成のために実験・実習等の学習や職業人等を活用している。
- 地域の福祉力を高める学習活動や、学習成果として専門性を生かしたボランティア活動等、学校の教育力を地域に還元している。
- ICTを積極的に活用し、福祉用具や福祉機器に関する学習を充実させ、学習効果を高めるよう工夫している。
- 実験・実習を行うに当たっては、安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、事故防止の指導を徹底している。
- 校外実習等においては、事前指導の徹底、事故発生時や災害時の危機管理体制等への対策、プライバシーの取扱いへの配慮に十分留意して指導している。

#### 【ポイント】

福祉科教育のより一層の改善・充実を図っていく上で、地域や福祉施設、産業界とのパートナーシップを確立することが重要です。

## 高等学校 情報

目標1

目標2

目標4

### 重点1 教育内容の改善・充実

- 情報セキュリティに関する知識や技術を習得することにとどまらず、情報の安全を担う能力と態度を育成する学習を充実させている。
- 情報コンテンツを利用した様々なサービスや関連する社会制度についての知識や技術の習得を図っている。
- システムの設計・管理と情報コンテンツの制作・発信に関する実践力の一体的な習得を図っている。
- 情報メディアと情報デザインに関する知識と技術の一体的な習得を図っている。
- 問題解決やプログラミングに関する学習の充実を図っている。
- 統計的手法の活用やデータの分析、活用、表現に関する学習の充実を図っている。
- ネットワークの設計、構築、運用管理、セキュリティに関する学習の充実を図っている。
- コンピュータグラフィックや情報コンテンツの制作に関する学習の充実を図っている。

#### 【ポイント】

専門教科情報科の「情報に関する科学的な見方・考え方」は「情報産業に関する事象を、情報技術を用いた問題解決の視点で捉え、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切かつ効果的な活用と関連付けること」となっており、共通教科情報科のそれをより専門的にしたものとなっています。

### 重点2 各科目の指導方法の再確認

目標3

- 個別の生徒の状況に合わせた指導方法や指導体制の改善がされている。
- 学習内容に応じて実習などの実践的・体験的な学習活動をできるだけ取り入れるなど、情報手段の操作体験を十分に取り入れ、生徒にとって身近な生活場面と関連付けて指導している。
- 授業で扱う具体例などは、情報技術の進展に対応して適宜見直しを図っている。
- 情報分野は変化が激しく、また、悪用されてはいけないので、情報モラルについては特に大切に指導している。
- 新たなシステムやコンテンツなどを地域や産業界等と協働して創造するなどの実践的・体験的な学習指導を行っている。
- 小学校・中学校のプログラミング教育を踏まえてプログラミング的思考（構造的に考える力）を身に付けさせている。
- 情報産業に関する課題の発見や解決の過程において、協働して分析、考察、討議するなど言語活動の充実を図っている。
- 個人情報や知的財産の保護と活用について扱うとともに、情報モラルや職業人に求められる倫理観の育成を図っている。

#### 【ポイント】

学習指導要領解説の総則及び情報科の目標の趣旨を再確認して、各科目の指導方法の改善することが重要です。また、情報教育の充実には、地域や産業界、特に大学との連携・交流が重要です。

## 高等学校 芸術（書道）



### 重点1 資質・能力を確実に育成するための授業改善を行う

目標1 目標2 目標4

- 本時のねらいや到達目標を明確にしている。
- 観点別学習状況評価の方針を事前に生徒と共有する場面を設けている。
- 生徒の興味・関心や理解を深めるために、ICTを効果的に活用している。
- 教師が説明・範書→生徒はひたすら臨書→作品提出という技能向上のみに偏らないような授業を展開している。
- 生徒同士の対話など、「主体的・対話的で深い学び」につながる工夫を単元の要所で取り入れている。
- 古典鑑賞や生徒作品の相互鑑賞など、鑑賞の授業を工夫して取り入れている。

#### 【ポイント】

学習指導要領では、「A表現」の3分野（「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」）と「B鑑賞」を全て学ぶこととされています。授業の中で表現と鑑賞の相互関連を図ることが大切です。また、グループでの言語活動や創作作品制作でのワークシートなど、作品を制作する過程を評価するための工夫が必要です。

### 重点2 生活や社会との関わり、文字文化

目標2

- 文字や書の効用を生活や社会に生かすことや、多様な文字文化に対する理解を深められる授業を工夫している。
- 「用具・用材」の指導では、表現効果や伝統、文化的価値について生徒が理解できるよう工夫している。
- 文字文化の視点から、「篆刻・刻字等」を扱うよう配慮している。

#### 【ポイント】

生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指し、「用具・用材」については、使用方法のみを指導するのではなく、その特徴と表現効果との関わりや文房四宝の伝統や価値について生徒が理解することが大切です。「篆刻・刻字等」は、書道Ⅰでは扱うよう配慮するものとされており、書道Ⅱにおいては、篆刻は必ず扱い、刻字等を加えることもできるとされています。

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-/1218.html>



## 小学校・中学校 特別の教科 道徳

### 重点1 指導の明確な意図をもつ 目標1 目標2


- 道徳的価値の意義を理解し、指導の意図を明確にするために、ねらいとする道徳的価値（内容項目に含まれるもの）について、学習指導要領に基づき考えている。 (1)道徳的価値の理解
- 児童生徒の実態を把握するために、ねらいとする道徳的価値について、日頃どのような指導を行い、その結果として児童生徒にどのようなよさや課題があるかを明らかにしている。 (2)児童生徒の実態
- 指導の意図を明確にした教材活用、学習展開をするために1及び2をもとに、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにしている。 (3)教材の活用

#### 【ポイント】

- ・児童生徒の実態を踏まえて、「どのようなことを考えてほしいのか」、「どのようなことに気付いてほしいのか」指導の意図を明確にして授業を構想しましょう。

※上記の1～3の視点で授業を構想できるシート

島根県教育センター ホームページ



道徳授業づくりシート・リーフレット  
(島根県教育センター 企画・研修スタッフ)

### 重点2 「主体的・対話的で深い学び」を実現する 目標1 目標2 目標4

- 一人一人の児童生徒が自分との関わりで捉えることができる工夫や、多面的・多角的に考えることができる工夫を通して、自己（人間として）の生き方について考えを深められるようにしている。
- 【ポイント】
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ICTも効果的に活用しましょう。  
(下記「★特別の教科 道徳における ICT 活用」参照)

### 重点3 「指導と評価の一体化」を実現する 目標1

- 指導において、期待する児童生徒の姿を具体的にイメージし、児童生徒の「学習状況」を把握できるように工夫している。
  - 評価において、道徳科の学習の積み重ねによる児童生徒の成長を、学習の過程や成果などの記録、児童生徒自身のエピソードの累積により的確に把握している。
  - 発言が多くない児童生徒、考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒等、評価する際の基礎資料がなかなか見いだせない児童生徒についてどのように見取っていくのかを校内で検討している。
- 【ポイント】
- ・道徳科における評価は、児童生徒の道徳科における学習状況を、個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりで、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか」、「道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているかどうか」の2つの視点で見取り、個人内評価を行いましょう。

### ★特別の教科 道徳における ICT 活用 目標4

特別の教科 道徳において ICT を活用することによって、次のことが可能になります。

- ・道徳的な価値の理解を自分自身との関わりの中で深める【主体的な学び】
- ・児童生徒が、異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える【対話的な学び】
- ・児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を教員が継続的に把握し、指導に活かす【指導と評価の一体化】

#### 【特別の教科 道徳の授業における ICT 活用例】 ※活用の目的は道徳性を養うことであることに留意しましょう。

- 導入の段階 ・児童生徒が道徳的価値についての問題意識をもつことができるように、児童生徒の実態や問題をグラフや画像、映像等で提示する。
- 展開の段階 ・教材を画像や映像等で提示する。  
・自分の考えをタブレット上に示し、互いに共有することで他者の考えを知り、多面的・多角的に考えられるようにする。
- 終末の段階 ・自己を見つめるために授業の振り返りなどをタブレット上に示し、授業ごとにその記録を蓄積する。

#### ～上記の重点を意識した授業づくりを支えるために～

- ① 全体計画、全体計画の別業及び年間指導計画を基に PDCA サイクルを意識した授業づくりを行い、道徳教育の要となる道徳科の授業を充実させましょう。その際、教師間で共通理解した、「重点的に指導しようとする内容項目」についての扱いを工夫したり、児童生徒の評価を活用したりして、授業改善を進めましょう。
- ② ①を要として、校長のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師を中心に、各校の実態に応じて全教育活動を通じて行う道徳教育を推進しましょう。
- ③ 児童生徒が問題意識を高めたり、感動を覚えたりするような教材として「島根県版道徳教育郷土資料『しまねの道徳』」があります。年間指導計画に位置づけ、活用を検討してみましょう。

## 高等学校 道徳教育

### 重点1 学校の教育活動全体を通じて人間としての在り方生き方に関する教育を行う 目標1 目標2

- 中学校までの道徳科等を通じて深めた道徳的諸価値についての理解を基にしながら、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、人間としての在り方生き方に関する教育を適切に行っている。
- ホームルーム活動、学校行事などの特別活動や、就業体験活動、ボランティア活動、地域の行事への参加などの体験活動の場を通して、日常生活における道徳的な実践の指導を行っている。
- 学校通信やホームページなどを活用して道徳教育に関する情報を積極的に発信したり、家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との連携を図っている。

#### 【ポイント】

- ・特に、公民科の必修教科目「公共」及び選択科目「倫理」並びに特別活動を、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導場面として重視しながらも、全ての教育活動を通じた道徳教育の充実を図ることを大切にしましょう。

### 重点2 道徳教育の全体計画を作成し、全教職員が協力して道徳教育を展開する

- 校長の明確な方針のもとに、道徳教育推進教師が中心となって、全教師の協力により作成している。
- 全体計画の作成に当たっては、各学校や生徒の実態に応じて、取扱う内容を重点化して示している。
- 全教職員による一貫性のある道徳教育を推進するために、校内の研修体制を充実させ、全体計画の実施状況を評価し改善している。

#### 【ポイント】

- ・全体計画の作成に当たっては、理念だけに終わることなく、人間としての在り方生き方に関する教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を示すことが必要です。その際、小・中学校の道徳教育との接続を意識しましょう。

### 小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）

目標3

- ◎道徳的諸価値の理解に基づき、自分自身に固有の選択基準・判断基準を形成することができる。
- ◎物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としてのよりよい在り方・生き方について自分自身の考えを深めることができる。

## 研修等について

#### ○小学校道徳教育講座

令和8年11月13日（金）

島根県教育センター

※受講対象者

小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校（小学部）の教員

#### ○県立学校道徳教育研修

令和8年6月24日（水）＜午後＞

※各校からオンラインで参加する。

※受講対象者

高等学校及び特別支援学校（高等部）の「道徳教育推進教師」、「特別活動担当教師」、「公民科目担当教師」のうち、過去3年間で本研修を受講していない者

しまねの教育情報 Web EIOS		文部科学省
小学校 道徳	中学校 道徳	道徳教育アーカイブ
		
<a href="#">小学校道徳のページ</a>	<a href="#">中学校道徳のページ</a>	<a href="#">道徳教育アーカイブ</a>

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-cc.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



## 小学校・中学校 総合的な学習の時間

## 高等学校 総合的な探究の時間

### 重点1 探究的な学習の過程を中心に据える 目標2

探究的な見方・考え方を働かせ、問題解決的な学習を発展的に繰り返していくこと、自己の生き方を考える課題を自ら発見し設定するプロセスを大切にしましょう。

- 「探究的な学習の過程（課題の設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現）」が繰り返される学習となっている。
- 児童生徒にとって必要感のある課題、**実社会・実生活に係る課題**や**地域や学校の特色**に応じた課題を取り扱い、児童生徒の**興味・関心等**に基づく学習となっている。

### 重点2 学習内容、学習方法を見直す 目標1 目標2

学校ごとに「目標」および「内容」を定め、全体計画や年間指導計画を作成しましょう。「内容」は「目標を実現するにふさわしい探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなります。

- 他者と協働して課題を解決しようとする学習となっている。
- 自然体験や職場体験、ボランティア活動等の体験活動、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れている。
- **小・中・高の連続性、発展性**を意識した学習内容になっている。

### 重点3 各教科等との関連を図る 目標1 目標2

横断的・総合的な学習を行う観点から、各教科等との関連を図ることを意識しましょう。

- 総合的な学習の時間における取組と各教科等における取組がどのように関連しているか意識して指導している。
- 各教科等を越えた**全ての学習の基盤となる資質・能力**(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など)を育成する取組となっている。
- 単元配列表を作成・活用し、育成を目指す資質・能力で各教科等をつなぎ、指導している。

### 〇小・中・高を通じて身に付けさせたい資質・能力（目指す子どもの姿） 目標1 目標3

- 実社会・実生活における課題に対して粘り強く解決に向かって探究している。
  - ・島根の現状、地域の現状を理解し、自ら課題を発見している。
  - ・唯一の正解が存在しない課題にも、様々な教科等で学んだ見方・考え方を総合的に活用している。
  - ・様々な他者と協働する中で、互いの資質・能力を認め合い、相互に生かし合っている。

### 〇総合的な学習（探究）の時間の評価について 目標1 目標3

評価の観点は、学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという総合的な学習の時間の特質から、**各学校が設定する**という枠組みが維持されています。一方で、現行学習指導要領の下では指導と評価の一体化を図る観点から、評価は資質・能力に基づき、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で整理することが求められています。

### 〇「総合的な学習（探究）の時間ガイドブック」配付

小・中・高の連携による一貫性をもった「総合的な学習（探究）の時間のあり方」を普及するために、ガイドブックを配付しています。  
<https://eio-shimane.jp/class-making/982>



### 研修等について

小・中学校「総合的な学習の時間」講座 ～探究的な学びを伸ばす学校のマネジメント～  
期日／会場：8月19日（水）／島根県教育センター  
対象者：小・中・義務教育学校、特別支援学校（小・中学部）の教員

### 重点1 探究的な学習の過程を中心に据える 目標2

探究の見方・考え方を働かせ、問題解決的な学習を発展的に繰り返していくこと、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し設定するプロセスを大切にしましょう。

- 「探究の過程（課題の設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現）」が発展的に繰り返される学習となっている。
- **実社会や実生活と自己との関わり**から問いを見だし、**自分で課題を立てる**ことができる学習となっている。

### 重点2 学習内容、学習方法を見直す 目標1 目標2

学校ごとに「目標」および「内容」、「方法」を定め、全体計画や年間指導計画を作成しましょう。「内容」は「目標を実現するにふさわしい探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」からなります。

- 他者と協働して主体的に課題を解決しようとする学習となっている。
- 体験活動、観察・実験・実習・調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れている。
- **小・中学校の取組の成果を生かした**、高等学校にふさわしい実践が展開されている。

### 重点3 各教科等との関連を図る 目標1 目標2

横断的・総合的な学習を行う観点から、各教科等との関連を図ることを意識しましょう。

- 総合的な探究の時間における取組と各教科等における取組がどのように関連しているか意識して指導している。
- 各教科等を越えた**全ての学習の基盤となる資質・能力**(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など)を育成する取組となっている。
- 複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせる学習となっている。

## 全体計画（例）

出典：「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 小学校編」令和3年3月 文部科学省 P.77 より抜粋

事例① ○〇学校 総合的な学習の時間 全体計画

**児童の実態**

- 素直で、まじめに取り組む子が多く、自己肯定感が高い
- 自分で考え粘り強く取り組む姿勢に課題がある
- 基本的な生活習慣や家庭学習習慣の定着に課題がある

**保護者の願い**

- 学習習慣の確立
- 良好な人間関係の構築
- 健康で安全な生活
- 基礎的・基本的な知識や技能の定着

**学校教育目標**

自他と地域を愛し、目標に向かってたくましく生きる、自立した児童の育成

- よりよく生きるために、相手意識を持ち、周囲の人たちと協働できる、なごやかな子
- 広い視野を持ち、持続可能で平和な社会・地域の創り手として活躍できる、しなやかな子
- 目標実現のために、主体的に考え判断し、行動できる、たくましい子

**総合的な学習の時間 第1の目標**

**総合的な学習の時間の目標**

自分と地域の人・もの・こととの関わりについて、探究活動を通して、総合的に追究する方法を身に付け、そこにある課題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決するとともに、自己のあり方や生き方を見つけようとする態度を育てる。

(1) 探究的な学習の過程において、これまでに身に付けた資質・能力を生かしながら、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、様々な方法で集めた情報を整理・分析し、各教科等で身に付けた資質・能力を生かしてまとめ・表現することができるようにする。

**地域の実態**

- 豊かな自然に恵まれている
- 高齢化が進行している
- 学校教育に対する理解があり、協力的である

**地域の願い**

- 地域の担い手となってほしい
- 地域行事等に積極的に参加してほしい
- 豊かな人間性を身に付けてほしい

総合的な学習の時間の内容				
学年	3年	4年	5年	6年
テーマ	町づくり	環境	食	福祉
探究課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織	身近な自然環境とそこに起きている環境問題	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者	身の回りの高齢者等とその暮らしを支援する仕組みや人々
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識	地域のよさや地域に住む人々の思いを理解することができる。	環境を守るようとする人々の思いや工夫を理解することができる。	地域の農業のよさと課題、携わる人々の願いを理解することができる。
	技能	地域に昔からあるものを大切に扱ったり、地域の人と挨拶をしたりするなど適切に接する。	4R(リデュース・リユース・リサイクル)について、学校や家庭で自分で行うことができる。	家庭内の調理や給食等の自らの食事において、適切な量を選び、食料を無駄にしないようにする。
	探究的な学習のよさの理解	地域を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさや人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。	ごみを少なくする、分別する等の意識や行動の変容は、環境問題や環境を守ろうとする人々の工夫について探究的に学んだことによる成果であると気付く。	食べ残しをしないなど、自分の意識や行動の変容は、食の問題や生産者の願い等について探究的に学んだことによる成果であると気付く。
	課題の設定	身近な環境に関する課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てることができる。	自分たちを取り巻く地域社会に広く目を向けて課題を見出し、解決の方法や手順を考え、見直しをもって計画を立てることができる。	多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集し、種類に合わせて紙面やICTで蓄積することができる。
	情報の収集	人に聞いたり、図書館やICTを活用して調べたりして、必要な情報を集めることができる。	集めた情報を表やグラフ、思考ツール等を用いて分類・整理し、特徴を見付けることができる。	いろいろな思考ツール等を用いて、集めた情報を整理し、情報と情報の関係を考えることができる。
整理・分析	集めた情報を比較し、観点ごとに分類し、表などを用いて整理することができる。	集めた情報や考えを整理し、情報と情報の関係を考えることができる。	適切な思考ツール等を用いて、集めた情報を整理し、情報と情報の関係を考えることができる。	
まとめ・表現	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に伝わるようにまとめることができる。	他教科等で培った表現力等を生かし、相手に応じて分かりやすく表現することができる。	他教科等で培った表現力等を活用し、目的に応じて手段を選択し、情報収集やまとめ等を行うことができる。	
主体性・協働性	身近な人と力を合わせて課題を解決しようとする。	身近な人と協力して探究活動を行おうとする。	他者と協働して探究活動に取り組み、協働の大切さに気付いている。	
自己理解・他者理解	課題解決の中で、自分の考えと異なる意見や考えがあることを知ろうとする。	探究活動の中で、自分や友達の意見や考えそれぞれによさがあることを知り、学び合おうとする。	探究活動を通して、自分自身のよさや他者のよさを生かしながら、協働して学び合おうとする。	
将来展望・社会参画	地域との関わりの中で、自分のできそうなことを見付けようとする。	地域との関わりの中で、自分のできることを見付けようとする。	地域との関わりの中で、自分のできることを見付け、実践に移そうとする。	

【学習活動】	【指導方法】	【指導体制】	【学習の評価】
・地域の実態、児童の実態を踏まえ、探究課題を設定する。 ・多様な人々と協働して解決する必要のある探究課題を設定する。	・体験活動を重視する。 ・各教科等との関連を重視した指導を行う。 ・学習内容によってはSDGsを意識し、持続可能な社会について考えられる指導の工夫をする。	・地域コーディネーターを中心に地域教材の活用や地域の人々、◇◇大学との連携・調整を行う。 ・全職員による指導体制を確立する。	・キャリアパスポートを活用した評価の充実を図る。 ・個人内評価を重視する。 ・発表会（異学年交流も含む）を利用した評価を取り入れる。

〇「今求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」・「今求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」（文部科学省）

総合的な学習（探究）の時間に係る計画の基本的な考え方や具体例、学習指導及び総合的な学習の時間を推進するための体制づくりなどについて、わかりやすく解説するとともに、優れた実践事例を取り上げた資料です。

- ・小学校編（令和3年3月）
- ・中学校編（令和4年3月）
- ・高等学校編（令和5年3月）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/sougou/main14\\_a2.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/main14_a2.htm)

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-cc.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>

## 小学校特別活動

## 中学校特別活動

## 高等学校特別活動

特別活動の充実は、よりよい学級・学校生活に向け、自分たちの生活上の課題に気づき、創意工夫して自ら解決する力を育むことにつながります。

### 重点1 合意形成する話し合い活動を通して取り組む学級活動(1)を充実

目標2

- 「よりよい学級、学校生活を自分たちの力でつくりあげるために、現状の問題を発見し、その解決のために話し合い、みんなで実践する」ことを重視している。
- 学級活動(1)の指導を充実させることで、全校という大きな集団になったときにも経験を生かして児童会活動等に見通しを持って取り組めるようにしている。
- 児童の思いを実現し、豊かな学級・学校生活をつくる活動を充実させるために、話し合い活動を積み重ねている。

#### 【ポイント】

- 学級における課題を児童と共に見つけ、児童が合意形成し、実践する経験ができるように、話し合い活動に取り組みましょう。
- 話し合ってから決めた内容を事後に実践しましょう。
- 実践を振り返り、次の活動への見通しがもてるようにしましょう。
- 事前の活動、本時の活動、事後の活動を充実させることが大切です。

※学級活動(1)の学習過程の(例) →

- 事後の活動では本時の活動で合意形成したことを実践する機会を確実に確保するとともに、実践を通して感じたこと、考えたことを振り返るようにしましょう。



### 重点2 意思決定を行う学級活動(2)・学級活動(3)の充実

目標1

目標3

- 事前・本時・事後の活動を計画的に実施し、一連の活動として充実させている。
- 一人一人が、「自己の成長を考えて、努力すること」や「なりたい自分に向けて、今すべき努力」について意思決定できるようにしている。
- 話し合った内容を一人一人の意思決定に生かす工夫をしている。
- 「キャリア・パスポート」に、日々の学びを取捨選択及び再編集しながら蓄積し、振り返る機会をつくらせる。

※学級活動(2)(3)の学習過程の(例) →



### 重点1 合意形成する話し合い活動を通して取り組む学級活動(1)を確保

目標2

- 「生徒一人一人が、学級や学校の課題を自分事として捉え、自分は学級や学校の生活をよりよくするために何ができるかということを考え、意思をもって実践する」ことを重視している。
- 学級活動(1)の時間を確保するためにも(2)(3)の内容を整理した年間指導計画を作成し、小学校までの積み重ねを生かして、定期的に学級活動(1)＝いわゆる学級会活動を行っている。
- 学級・学校における課題を生徒と共に見つけ、生徒が合意形成し、実践する経験ができるように、話し合い活動に取り組んでいる。

#### 【ポイント】

- 生徒が主体的に取り組める切実感のある議題を設定できるようにすることが大切です。そのために、日ごろから生徒の様子を観察し、生徒の課題と感じていることなどを把握しましょう。
- 話し合う内容を生徒に示したり、事前に自分なりの考えをもつことを約束事にしたりするなど、意見を発表しやすくするように工夫しましょう。
- 事前の活動、本時の活動、事後の活動を充実させることが大切です。

※学級活動(1)の学習過程の(例) →



### 重点2 意思決定を行う学級活動(2)・学級活動(3)の充実

目標1

目標3

- 事前・本時・事後の活動を計画的に実施し、一連の活動として充実させている。
- 委員会活動等の組織を生かして活動テーマを設定できるようにしている。
- 話し合った内容を一人一人の意思決定に生かす工夫をしている。
- キャリア教育の要として、特に学級活動(3)の時間を計画的に実施している。
- 「キャリア・パスポート」に、日々の学びを取捨選択及び再編集しながら蓄積し、振り返り、将来の生き方を考える活動を行うようにしている。



### 重点1 自治的能力や主権者として積極的に社会参画するための力の育成を見通し、生徒の自発的・自治的活動を実現

目標2

- 中学校までの積み重ねを生かして、ホームルーム活動における自発的・自治的活動に取り組めるようにしている。
- 育成を目指す資質・能力の重点化を図っている。
- ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事との内容相互の関連を図っている。

#### 【ポイント】

- 生徒の自発的・自治的活動を助長するために、生徒の主体的な活動場面をできるだけ多く取り入れることで、合意形成のための話し合い活動に取り組めるようにしましょう。

### 重点2 ホームルーム活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」の充実

目標1

目標3

- 学校図書館を活用するなどして、自分にふさわしい学習方法や学習習慣を身に付ける指導を行っている。
- 社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考える指導を行っている。
- 主体的な進路選択や将来設計のために、自己の在り方・生き方や進路に関する情報を収集・整理し、自己の適性や興味・関心と照らして考えさせる指導を行っている。
- 話し合った内容を、一人一人の意思決定に生かす工夫をしている。
- キャリア教育に関わる学びを蓄積した「キャリア・パスポート」を活用して、将来の生き方(進路実現)を考える活動を行うようにしている。

#### 【ポイント】

- 現在及び将来の生活や学習と自己実現とのつながりを考えたり、社会的・職業的自立の意義を意識したりしながら、学習の見通しを立て、振り返る活動を取り入れるようにしましょう。

### ★特別活動におけるICTの活用について

目標4

特別活動の指導に当たっては、その方法原理である「なすこと」によって学ぶ直接体験が基本です。指導内容に応じて、一人一台端末などを適切に活用することによって、児童生徒の学習の質を高めることができます。

【学級活動・ホームルーム活動での活用例】

- アンケート結果や資料の掲示に活用
- 生活上の問題を把握するために必要な情報収集に活用
- 意見の分類・整理に活用
- 児童生徒が実践を振り返って気づいたことや考えた記録の蓄積に活用



<参考>  
教員のICT活用指導力の向上特別活動ページ  
(文部科学省HPへのリンク)

### ★小・中・高等学校の特別活動の評価について

目標1

- 「評価の観点」とその趣旨について、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校で設定することになっています。学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を各学校で設定しましょう。
- 特別活動は、全校又は学年を単位として行う活動があり、学級担任・ホームルーム担任以外の教師が指導することも多いことから、各学校では評価体制を確立し共通理解を図って、児童生徒のよさや可能性を多面的、総合的に評価できるようにしましょう。また、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、指導要録に○を記入します。
- 特別活動は、活動の積み重ねにより年間を通して児童生徒の資質・能力を図るものです。すべての評価の観点について、事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしたり、各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録したりしておき、一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき、まとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるようにしましょう。

目標5との関連は、URLまたは二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>



### 小・中・高を通じて身に付けさせたい資質・能力(目指す子どもの姿)

目標3

自主的、実践的な集団活動を通して、特別活動で育成する資質・能力を「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点で整理し、次の要素を育成する。

#### ◎集団活動を行う上で必要となる知識及び技能

- 集団活動の意義や価値の理解
- 基本的な生活習慣や社会生活におけるルールやマナー及びその意義について理解し、実践すること
- 将来の社会的・職業的な自立と現在の学習がどのように関わるかということを理解し、自分でできることを意思決定し、実践すること

#### ◎集団や自己の生活、人間関係の課題解決の過程において必要となる思考力、判断力、表現力等

- 課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにすること

#### ◎集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度

- 多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとする態度
- 集団や社会の形成者として、多様な他者と協働して、集団や生活上の諸問題を解決し、よりよい生活をつくろうとする態度

## 研修等について

- 小学校特別活動講座(大田市立朝波小学校) 10月1日(木)講師:久和井伸彦 調査官 ※受講対象・・・希望者・管理職セレクト研修対象
- 中学校特別活動講座(松江市立東出雲中学校) 11月5日(木)講師:東北福祉大学 長田 徹 ※受講対象・・・希望者・管理職セレクト研修対象
- 島根県学校図書館研究大会(雲南市立木次小学校) 10月23日(金)図書館を活用した学級活動の充実を図る授業が公開されます。

しまねの教育情報 Web EIOS

小学校特別活動に係る情報

中学校特別活動に係る情報

高等学校特別活動に係る内容



[小学校特別活動ページ](#)



小学校特別活動映像資料



[中学校特別活動ページ](#)



[高等学校特別活動ページ](#)

## 自立活動

☐目標3

☐目標5

自立活動は、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導の教育課程において、特別に設けられた指導領域です。障がいのある児童生徒の教育において、教育課程上重要な位置を占めており、個々の児童生徒の実態に応じて、適切な授業時数を確保しなければなりません。

また、自立活動の指導は学校の教育活動全体を通じて行うもので、自立活動の時間における指導と各教科等における指導とが密接に関連を保つことが必要です。

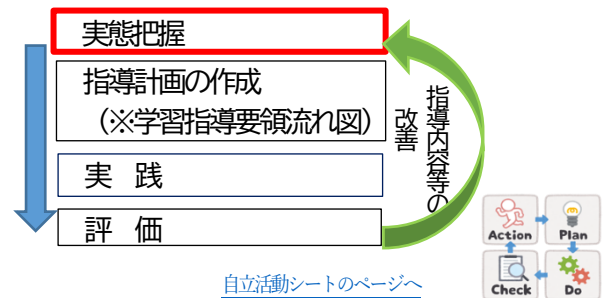
### ○自立活動の6区分

自立活動の内容は、六つの区分の下にそれぞれ3～5の項目があり、全部で27項目です。

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成
4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション

☞指導目標の設定のポイント

- 実態把握に基づき指導すべき課題相互の関連を検討
- 指導目標の設定と目標達成に必要な項目の選定
- 6区分27項目との関連付け



[自立活動シートのページへ](#)

### ○自立活動の個別の指導計画の作成

自立活動は、授業時間を特設して行う指導を中心とし、個別の指導計画を作成して指導にあたります。指導に際しては、児童生徒の学習状況の評価を通して指導の改善を図ることが必要です。

### 重点1 多面的な実態把握から「指導すべき課題」を整理し、指導目標を設定する

#### 【多面的な実態把握の項目の例】

- ・ 病気の有無や状態
- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 心理的な安定の状態
- ・ 対人関係や社会性の発達
- ・ 進路
- ・ 障がいの理解に関すること
- ・ 身体機能（視機能、聴覚機能、知的発達や身体発育の状態）
- ・ 特別な施設・設備や補助具（機器等）の必要性
- ・ 生育歴
- ・ 人やものとのかわり
- ・ コミュニケーションの状態
- ・ 興味・関心
- ・ 家庭や地域の環境等
- ・ 学習上の配慮事項や学力

#### ☞ポイント

実態把握が自立活動の指導計画作成の基盤です。幼児児童生徒が現在行っていることや、指導をすればできること、環境を整えればできることなどに目を向けることが大切です。

#### 【多面的な実態把握の方法例】

- 引き継ぎ資料から
- 観察・聞き取り
- 客観的なアセスメントツール
- 保護者面談 など

### 重点2 各教科等の指導と関連付ける

障がいのある幼児児童生徒は、その障がいによって、各教科等において育まれる資質・能力の育成につまずきなどが生じやすいことから、自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っています。

指導の効果を適切かつ多面的に判断するため、自立活動の指導の担当者だけでなく、各教科等の指導にかかわっている教師間の協力の下に評価を行いましょ

#### 資料等（リンク）

「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」を踏まえ、指導を行います。

自立活動を実施する際に、次の資料が参考になります。

#### ○[島根県教育センターHP「特別支援教育のページ」](#)

- ・ 自立活動って何だろう Ver.2
- ・ 自立活動の内容一覧
- ・ 自立活動シート 等

#### ○[教育課程編成の手引き～特別支援学校編](#)

（島根県教育委員会 令和2年3月）